

広島大学 SDGs 意識調査  
Hiroshima University  
SDGs Awareness Survey

2020 年 3 月 MARCH 2020



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## Table of Contents 目次

この報告書は日本語と英語で作成しております。前半が日本語、後半が英語で構成されています。

This report is written in Japanese and English. The first half presents in Japanese and the second half presents in English.

### Japanese/日本語

1. はじめに .....	6
2. 調査概要 .....	7
2.1 報告書の構成.....	7
2.2 調査手法 .....	7
2.3 回答者の内訳.....	8
2.3.1 学生.....	9
2.3.2 職員 .....	10
2.3.3 教員 .....	11
3. 主な結果 .....	12
4. 記述統計 .....	15
4.1 SDGs の認知度 .....	15
4.1.1 2020 年の SDGs の認知度 .....	16
4.1.2 2019 年と 2020 年の SDGs の認知度の比較.....	17
4.2 SDGs 実施に関するコミュニティへの期待度 .....	18
4.2.1 学生(2020 年) .....	19
4.2.2 学生(2019 年) .....	20
4.2.3 職員 .....	21
4.2.4 教員 .....	22
4.3 SDGs の実施 .....	23

4.3.1 学生.....	24
4.3.2 職員.....	25
4.3.3 教員.....	26
4.4 SDGs 達成に向けた学際的アプローチ.....	27
4.4.1 学生.....	28
4.4.2 教員.....	29
4.5 各ゴールに関する意識.....	30
4.5.1 学生(2020 年).....	31
4.5.2 学生(2019 年).....	32
4.5.3 職員.....	33
4.5.4 教員.....	34
4.6 だれが SDGs に対して責任を持つべきか.....	35
4.6.1 学生(2020 年).....	35
4.6.2 学生(2019 年).....	36
4.6.3 職員.....	37
4.6.4 教員.....	38
4.7 NERPS の認知度.....	39
4.7.1 学生.....	40
4.7.2 職員.....	41
4.7.3 教員.....	42

ウェブ版はこちらで公開しています。更新及び修正はこちらで公開します。

日本語版：[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai\\_awareness2020\\_j.html](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai_awareness2020_j.html)

English/英語

1. Foreword.....	44
2. Brief Overview of the Survey .....	45
2.1 Outline .....	45
2.2 Study Methods.....	45
2.3 Breakdowns of Respondents.....	46
2.3.1 Students.....	47
2.3.2 Staff .....	48
2.3.3 faculty.....	49
3. Key Findings.....	50
4. Descriptive Statistics .....	53
4.1 SDGs Awareness .....	53
4.1.1 The SDGs Awareness of 2020.....	54
4.1.2 The SDGs Awareness of 2019 and 2020 .....	55
4.2 University Members' Expectations to the Community regarding SDGs implementations .....	56
4.2.1 Student 2020.....	57
4.2.2 Student 2019.....	58
4.2.3 Staff .....	59
4.2.4 Faculty.....	60
4.3 SDGs implementation.....	61
4.3.1 Student.....	62
4.3.2 Staff .....	63
4.3.3 Faculty.....	64
4.4 Multidisciplinary Approaches to Achieving the SDGs.....	65
4.4.1 Student.....	66

4.4.2 Faculty.....	67
4.5 Perceptions on Individual Goals .....	68
4.5.1 Student 2020.....	68
4.5.2 Student 2019.....	69
4.5.3 Staff .....	70
4.5.4 Faculty.....	71
4.6 Who should be responsible for each SDG in Japan?.....	72
4.6.1 Student 2020.....	72
4.6.2 Student 2019.....	73
4.6.3 Staff .....	74
4.6.4 Faculty.....	75
4.7 Awareness about NERPS.....	76
4.7.1 Student.....	77
4.7.2 Staff .....	78
4.7.3 Faculty.....	79

The web version can be found at the following website. Update and revision will be posted there.

Japanese: [https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai\\_awareness2020\\_j.html](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai_awareness2020_j.html)

English: [https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai\\_awareness2020\\_e.html](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tomomi/hirodai_awareness2020_e.html)

## 1. はじめに

持続可能な開発目標（SDGs、エス・ディ・ジーズ）は、2015年に国連で採択された国際目標です。環境・社会・経済の諸問題を包括的に扱った17個の目標から構成され、2030年までに、先進国も途上国も、国も企業も個人も、みんなが協力し、誰一人として取り残さない持続可能な世界を実現することを目指しています。

大学はSDGs達成に向けた重要なステークホルダーです。従来の研究や教育に加えSDGsに関する大学全体の取り組みが大学の「評価」に影響を及ぼすことになりました。2019年に、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が、各大学のSDGsへの取り組みを評価する「THE大学インパクトランキング」を導入しました。大学がどのようにSDGs達成に貢献できるか調査することは意義があります。加えて、大学の構成員が積極的にSDGsに関する活動に参加することが成功へのカギとなります。そこで、本調査では広島大学構成員の意識を測るために調査を実施しました。

昨年度学生を対象に意識調査を実施し、その取り組みを拡大すべく本年度は広島大学全構成員を対象に調査を実施しました。2020年2-3月にかけてオンラインアンケートを実施し、1000件を超える回答をいただきました。本報告書に、SDGsに対する意識、教育、研究、日常生活における取組状況を中心にまとめました。

また、「令和元年広島大学女性研究者共同研究費助成制度」の支援を受けて行われた国際開発センター(the International Development Center of Japan: IDCJ)との共同研究の一環です。本事業は広島大学全学的な取り組みであるFE・SDGsネットワーク拠点(Network for Education and Research on Peace and Sustainability: NERPS)の活動としても位置付けられています。

最後に、今回のアンケートに回答、協力していただきました皆さま、関係事務・教職員の皆さまに、感謝申し上げます。

2020年3月

研究代表者  
広島大学国際協力研究科 研究員  
山根友美 (tomomi@hiroshima-u.ac.jp)

## 2. 調査概要

### 2.1 報告書の構成

本報告書は以下のとおり構成されています。

1. 調査概要 調査方法、回答者の属性などを示しています。
2. 調査の分析結果(概要) 調査で得られた分析結果を示しています。
3. 設問と回答分布 個別の設問の集計結果を示しています。

### 2.2 調査手法

#### 調査期間

2020年2月10日–3月10日

#### 調査方法

インターネットアンケート調査(日本語と英語の2か国語)

#### 周知方法

広島大学学生情報システム「もみじ」の研究科・学部掲示板に調査協力依頼を2度掲示、学内にポスターを掲示しました。

研究企画室を通じて、全部局にメールで周知依頼を送付しました。

周知及びアンケート調査については、全て日本語・英語で行いました。

#### 2019年度の調査

本調査の約1年前の2019年に学生を対象に調査を実施しました。比較できるように、多くの質問項目は同じものを使用しました。2019年と2020年を比較できるように、一部は2019年の結果を本報告書に掲載しています。2019年の報告書は下記からダウンロード可能です。

<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00048196>



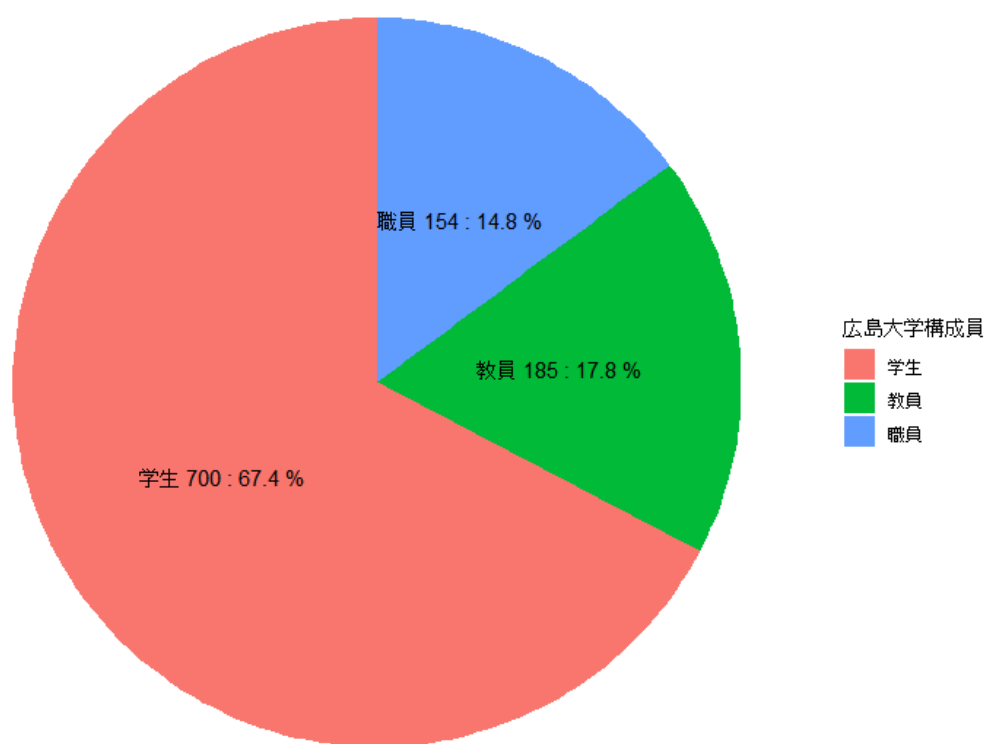
## 2.3 回答者の内訳

有効回答数は 1039 です。広島大学全構成員を対象に行いました。回答者は以下のとおり分類されます。

学生：学部生・大学院生 (卒業生や非正規生も含みます)

職員：職員

教員：研究教育系職員



### 2.3.1 学生

#### 学部・研究科ごとの内訳

学生 (Total n=700)

関係する学部・研究科はまとめて表記しています。その他には卒業生および非正規生が含まれます。

	B1	B2	B3	B4	M1	M2	D1	D2	D3	その他	計
総合科学	10	12	6	11	3	2	3	2	0	3	52
文学	6	11	9	4	5	2	3	2	1	0	43
教育	18	15	15	31	11	15	4	5	4	3	121
社会科学	18	22	16	11	5	0	0	1	2	0	75
理学	13	16	15	14	5	5	2	1	4	1	76
医歯薬	8	10	13	8	2	5	4	2	2	11	65
工学	18	20	16	20	18	16	5	2	2	3	120
生物生産/生物圏科学	10	7	9	4	1	4	0	0	2	0	37
情報科学	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	10
先端物質科学研究科	0	0	0	0	2	5	0	0	2	0	9
国際協力研究科	0	0	0	0	11	16	6	2	2	2	39
総合生命科学研究科	0	0	0	0	12	1	4	0	0	0	17
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	1	34	36

### 2.3.2 職員

部局ごとの内訳  
職員 (Total n=154)

	Freq
総合戦略室	5
監査室	2
教育室	8
学術・社会連携室	6
医療政策室	2
国際室	5
財務・総務室	12
運営支援部(東広島地区)	29
運営支援部(東千田地区)	1
運営支援部(霞地区)	9
病院	36
その他(東広島地区)	23
その他(東千田地区)	1
その他(霞地区)	15

### 2.3.3 教員

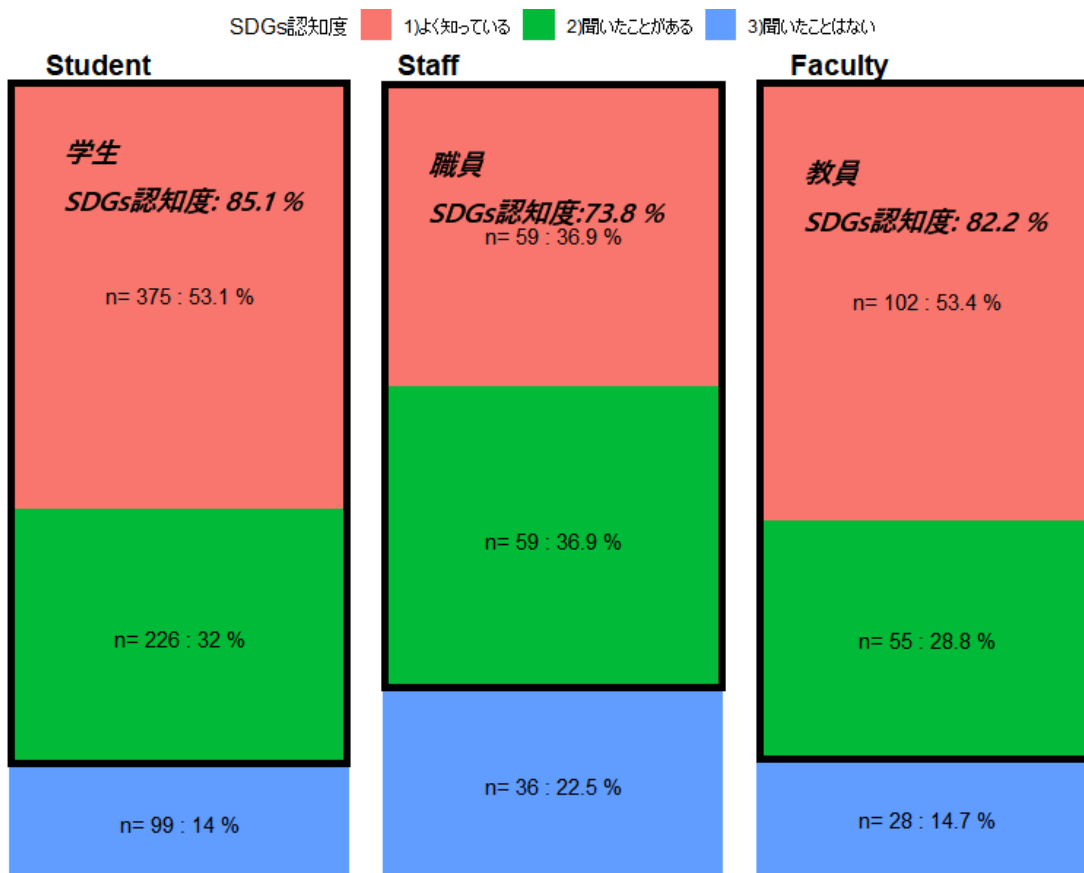
部局ごとの内訳  
教員 (Total n=185)

	Freq
総合科学研究科	11
文学研究科	7
教育学研究科	18
社会科学研究科	2
理学研究科	13
先端物質科学研究科	5
医系科学研究科	53
工学研究科	20
国際協力研究科	10
法務研究科	1
総合生命科学研究科	21
各種センター	11
その他	13

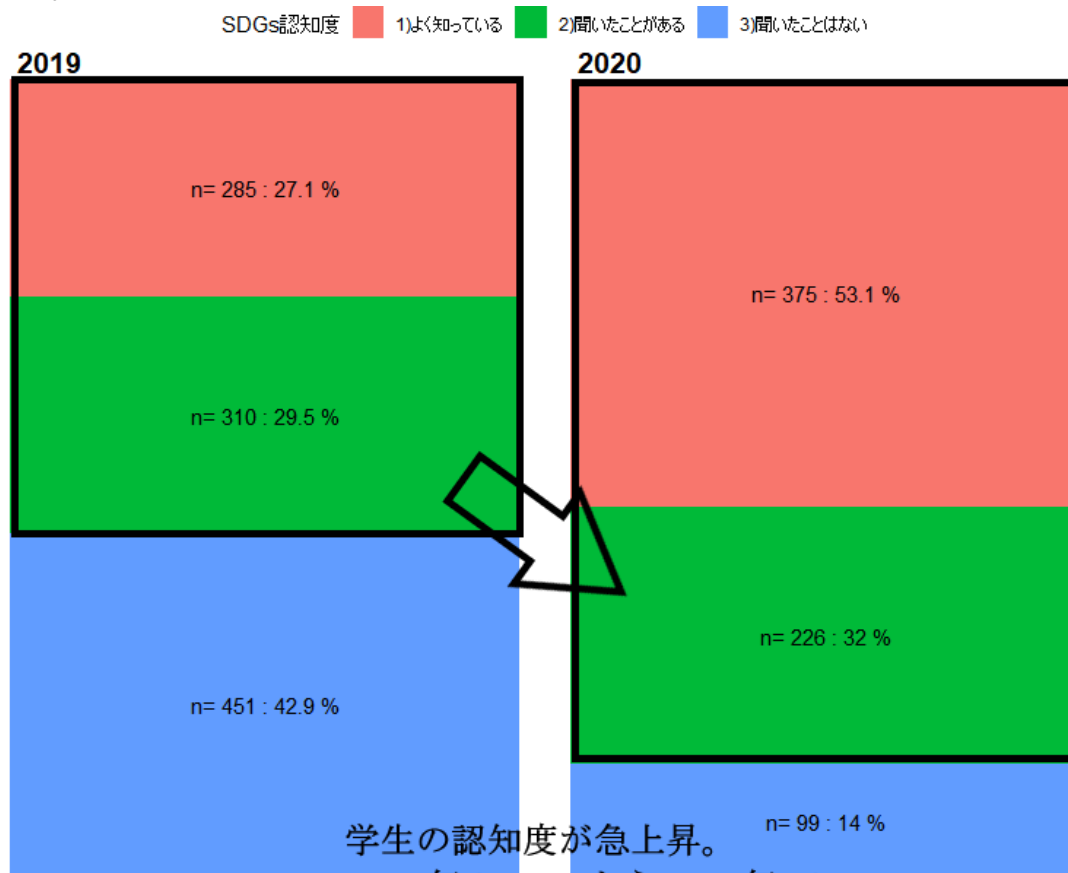
### 3. 主な結果

広島大学のSDGsの認知度は、学生85.10%、職員73.80%、教員82.20%。詳細は、4.1.1参照。

本報告書では、SDGsの認知度はSDGsを聞いたことがある人の割合と定義しています。

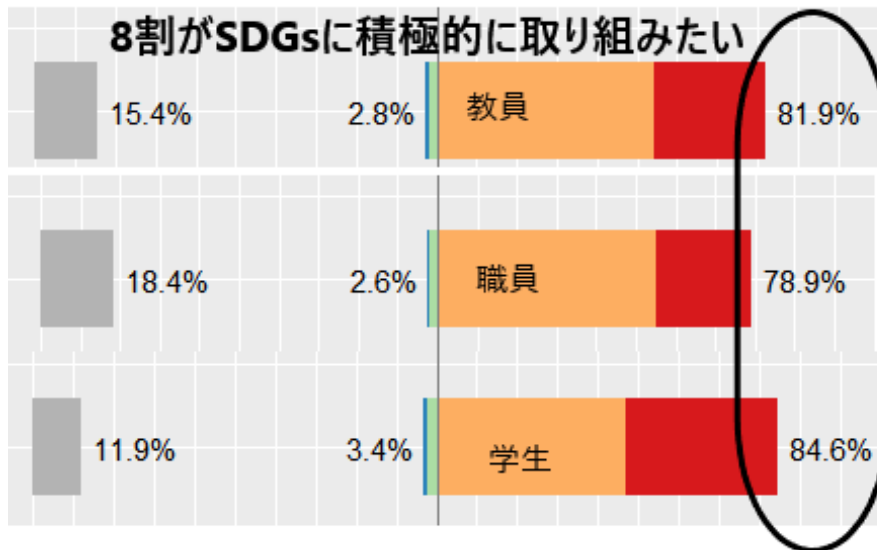


学生の認知度が急上昇。2019年56.60%から2020年85.10%へ。詳細は、4.1.2参照。

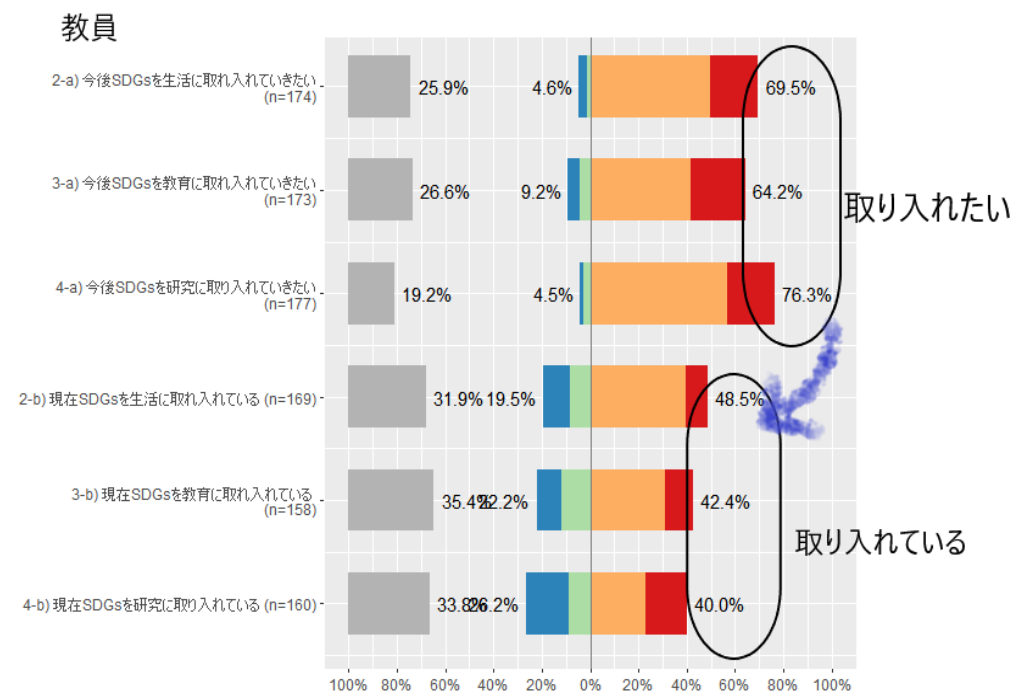


学生の認知度が急上昇。  
2019年56.60%から2020年85.10%へ。

約 80%の回答者が SDGs に積極的に取り組みたいと回答。学生 84.6%、職員 78.9%、教員 81.9%。詳細は 4.3.1, 4.3.2 & 4.3.3 の 1 を参照。



84.8%の大学院生、76.3%の教員が、SDGs を研究に取り入れたいと回答。しかし、実際に SDGs を取り入れていると回答した人は、大学院生 53.5%、教員 40.0%。実際に取り入れている教員・院生は少ない。詳細は、4.3.1 & 4.3.2 の 4-a & 4-b 参照。



## 4. 記述統計

### 4.1 SDGs の認知度

全回答者に「このアンケートを行う前、SDGs を知っていましたか」と聞きました。回答者は以下の選択肢から1つ選択します。

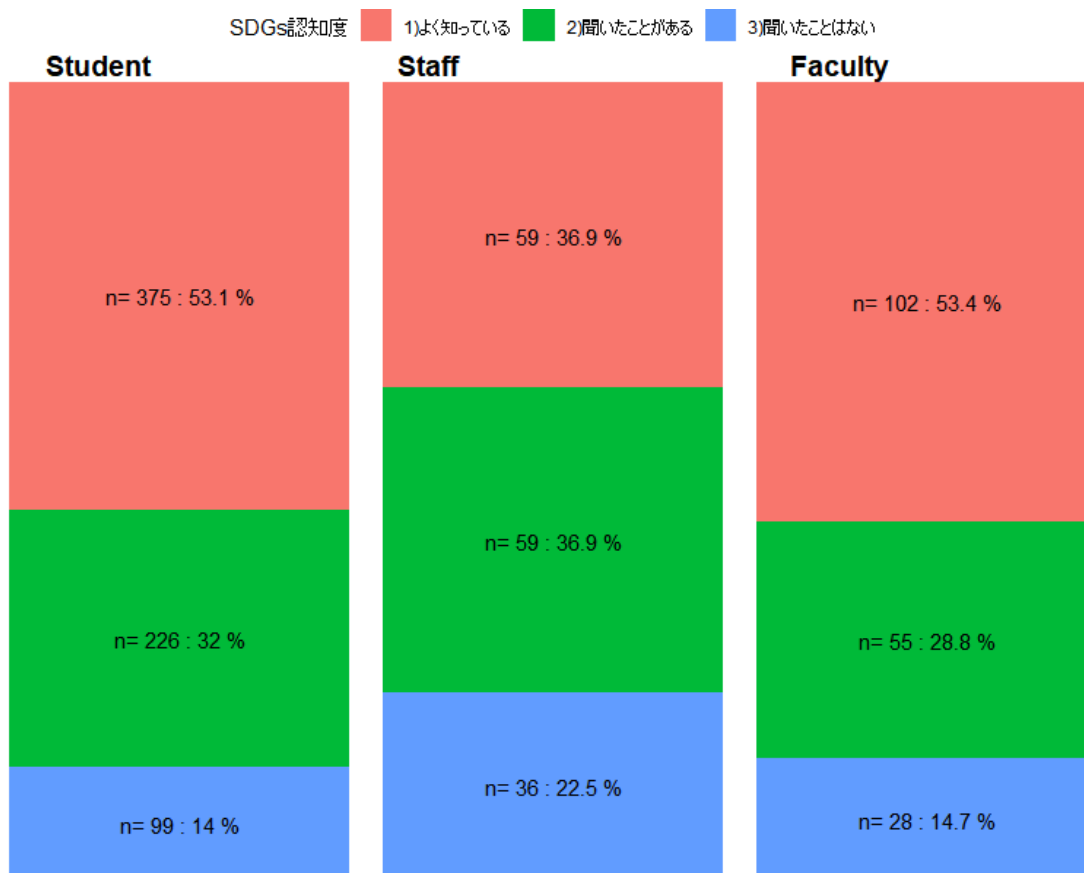
- 1) 聞いたことがあり、よく知っている。
- 2) 聞いたことがあるが、意味は知らない。
- 3) 聞いたことはない。

本報告書では、SDGs の認知度は SDGs を聞いたことがある人の割合と定義しています。つまり、上記の設問で、1)もしくは2)と回答した人の割合です。

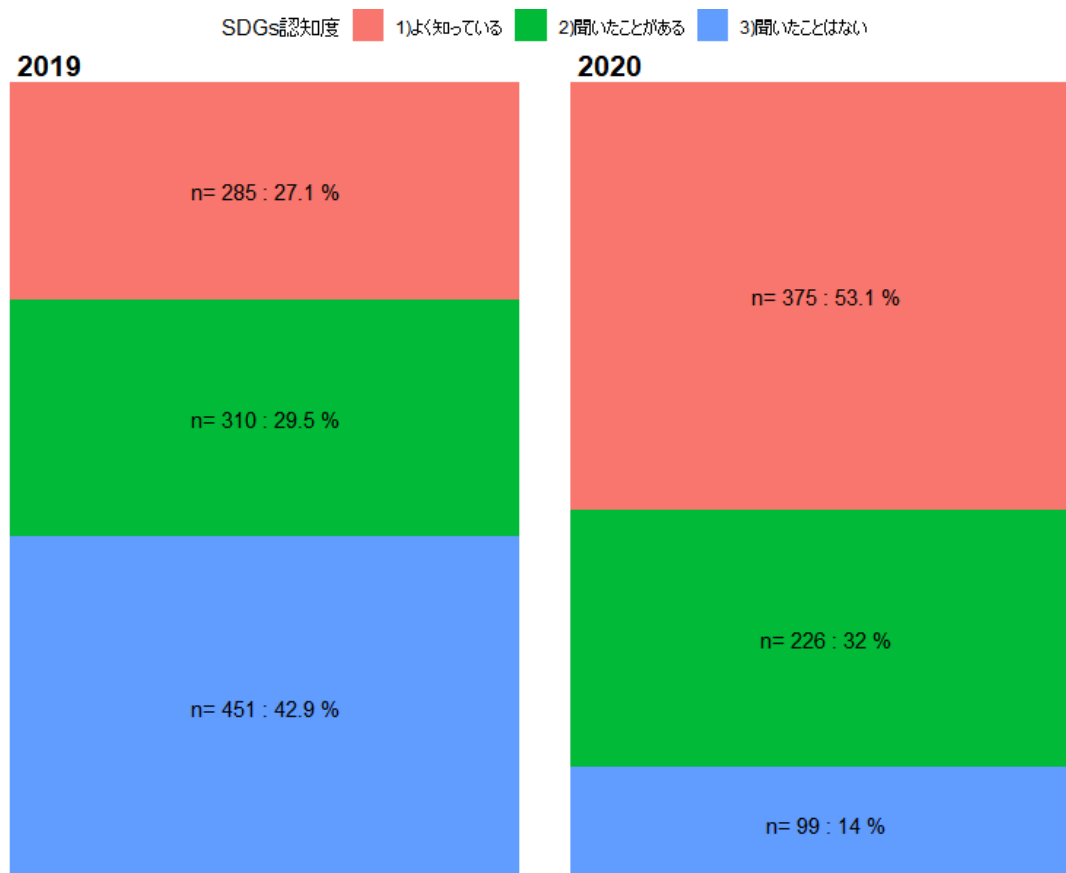
広島大学の SDGs の認知度は、学生 **85.10 %**、職員 **73.80%**、教員 **82.20%** でした。**(4.1.1 参照)** 学生の認知度が急上昇し、**2019 年 56.60%**から**2020 年 85.10 %**となりました。**(4.1.2 参照)**



#### 4.1.1 2020 年の SDGs の認知度



#### 4.1.2 2019 年と 2020 年の SDGs の認知度の比較



## 4.2 SDGs 実施に関するコミュニティへの期待度

SDGs 実施に関する社会への期待度を測るために、全回答者に質問しました。次の文章に対して最も当てはまるものを 5 段階で答えてもらいました。

- 1) 自分が住んでいる自治体でも、積極的に SDGs に取り組んで欲しい
- 2) 自分が勤めている会社・通っている学校でも、積極的に SDGs に取り組んで欲しい
- 3) 将来、転居するとしたら、SDGs に積極的に取り組んでいる地域に住みたい
- 4) 将来、就職(転職)するとしたら、SDGs に積極的に取り組んでいる企業・組織で働きたい

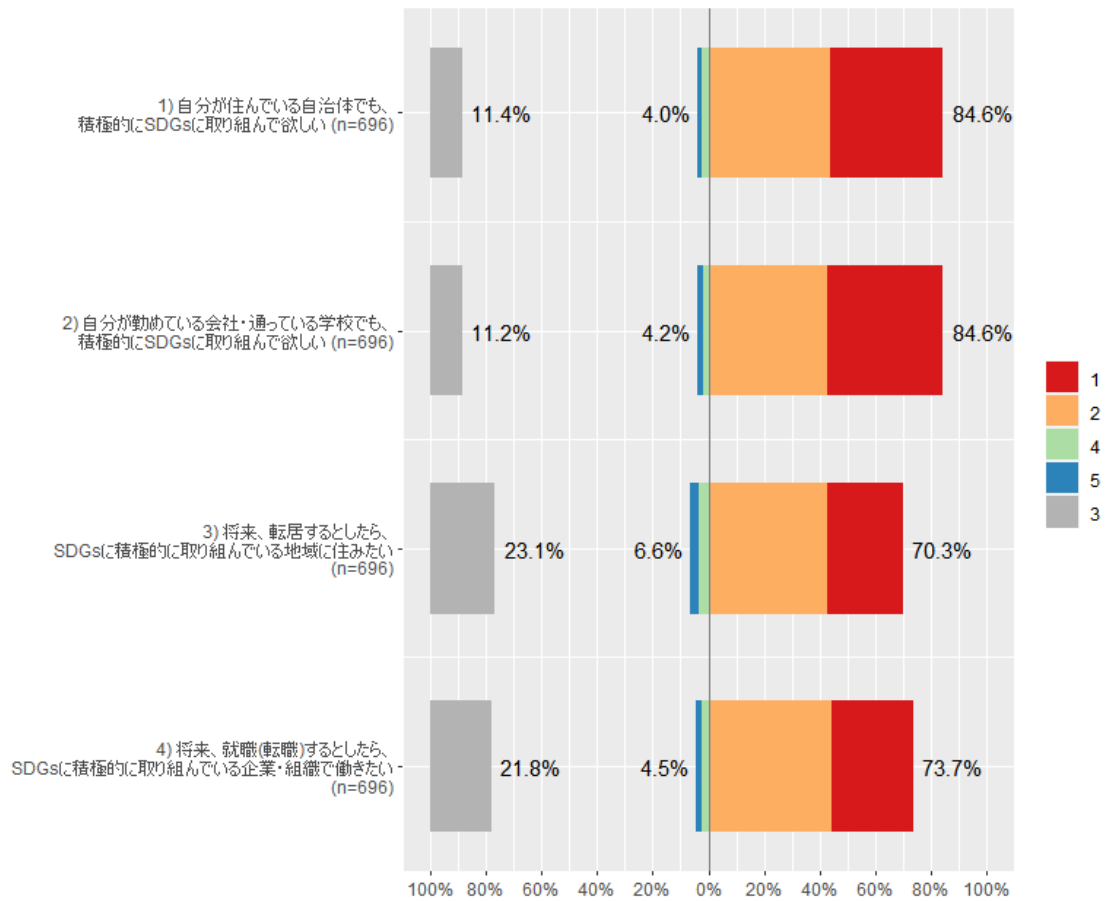
スケールは次のとおりです。

1. と思う
2. どちらかと言えばと思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない
5. そう思わない

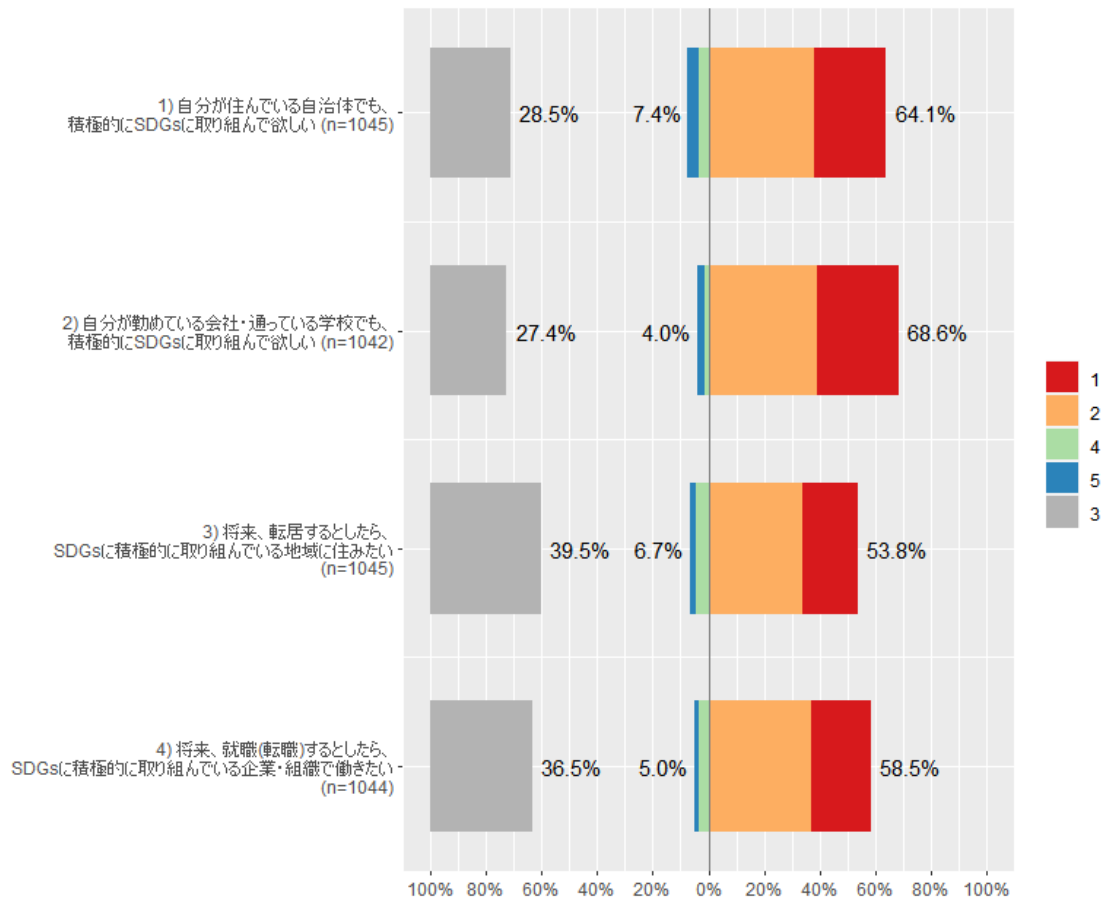
図 4.2.1 – 4.2.4 では、右側の棒(回答 1.&2.)は前向きな反応を表します。

約 80%の回答者は学校、自治体、会社など属している社会・コミュニティに対して、SDGs に積極的に取り組んで欲しいと回答しています。2019 年の結果と比較すると、広島大学への期待が上がっています。2019 年の調査では、64.1%でしたが、2020 年の調査では、84.6%が学生が自分が通う大学に積極的に取り組んで欲しいと回答しています。SDGs への認知度が上昇したことに伴い、自分が属する社会・コミュニティへの SDGs への取り組みに対する期待が高まっています。

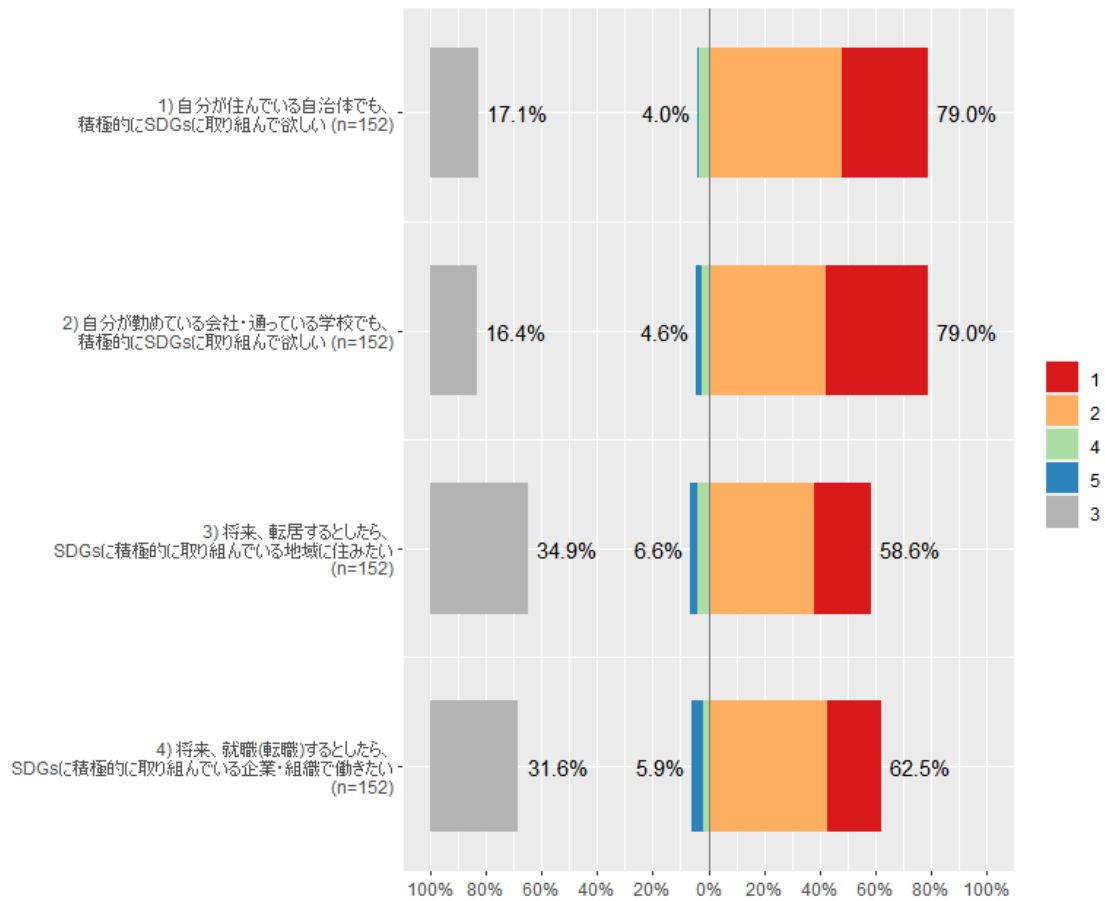
## 4.2.1 学生(2020 年)



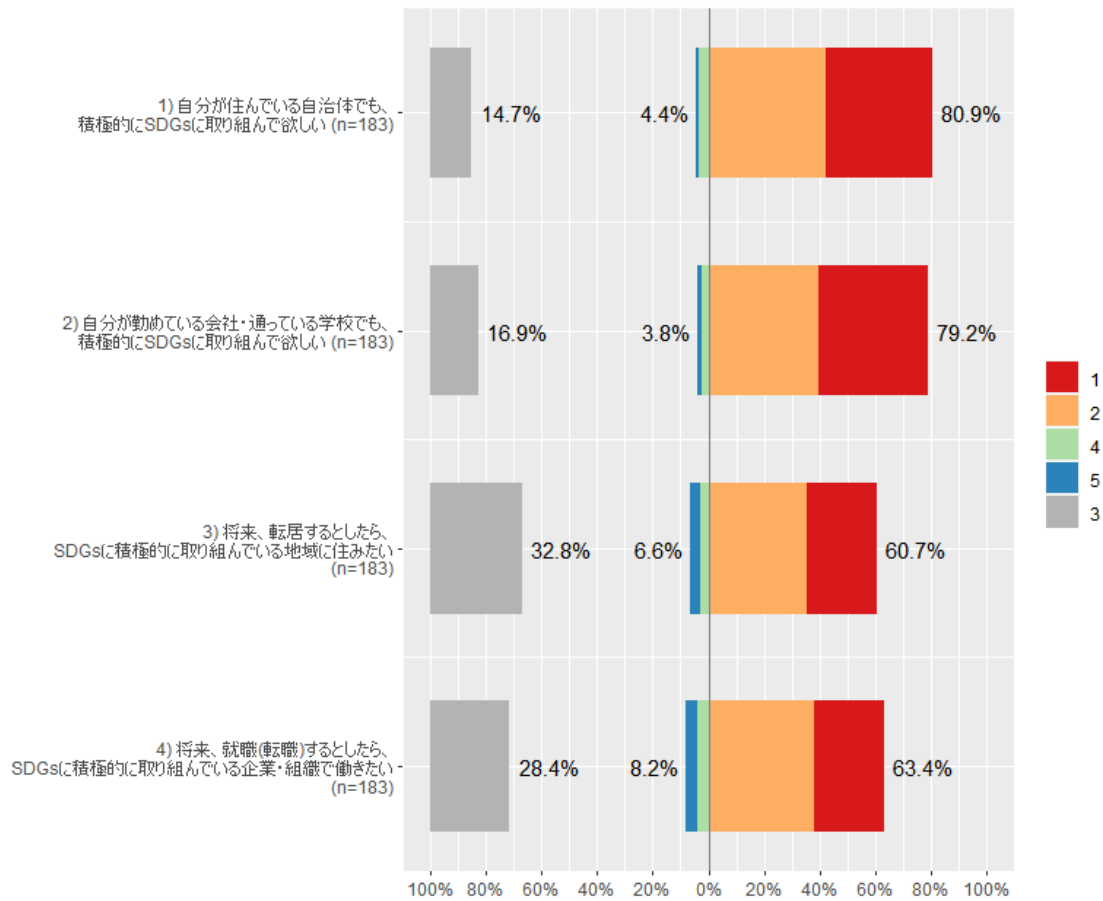
## 4.2.2 学生(2019 年)



### 4.2.3 職員



## 4.2.4 教員



## 4.3 SDGs の実施

SDGs 実施に関して本人の意欲を測るために、全回答者に質問しました。次の文章に対して最も当てはまるものを 5 段階で答えてもらいました。

### 1) 自分も SDGs に積極的に取り組んでいきたい

スケールは次のとおりです。

1. と思う
2. どちらかと言えばと思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない
5. そう思わない

さらに、研究教育への SDGs を取り入れることについて測るために、大学院生と教員に次の文章に対して最も当てはまるものを 5 段階で答えてもらいました。

- 2-a) 今後 SDGs を生活に取れ入れていきたい
- 3-a) 今後 SDGs を教育に取れ入れていきたい
- 4-a) 今後 SDGs を研究に取り入れていきたい
- 2-b) 現在 SDGs を生活に取れ入れている
- 3-b) 現在 SDGs を教育に取れ入れている
- 4-b) 現在 SDGs を研究に取り入れている

スケールは次のとおりです。

1. と思う
2. どちらかと言えばと思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない
5. そう思わない
6. あてはまらない (欠損として処理)

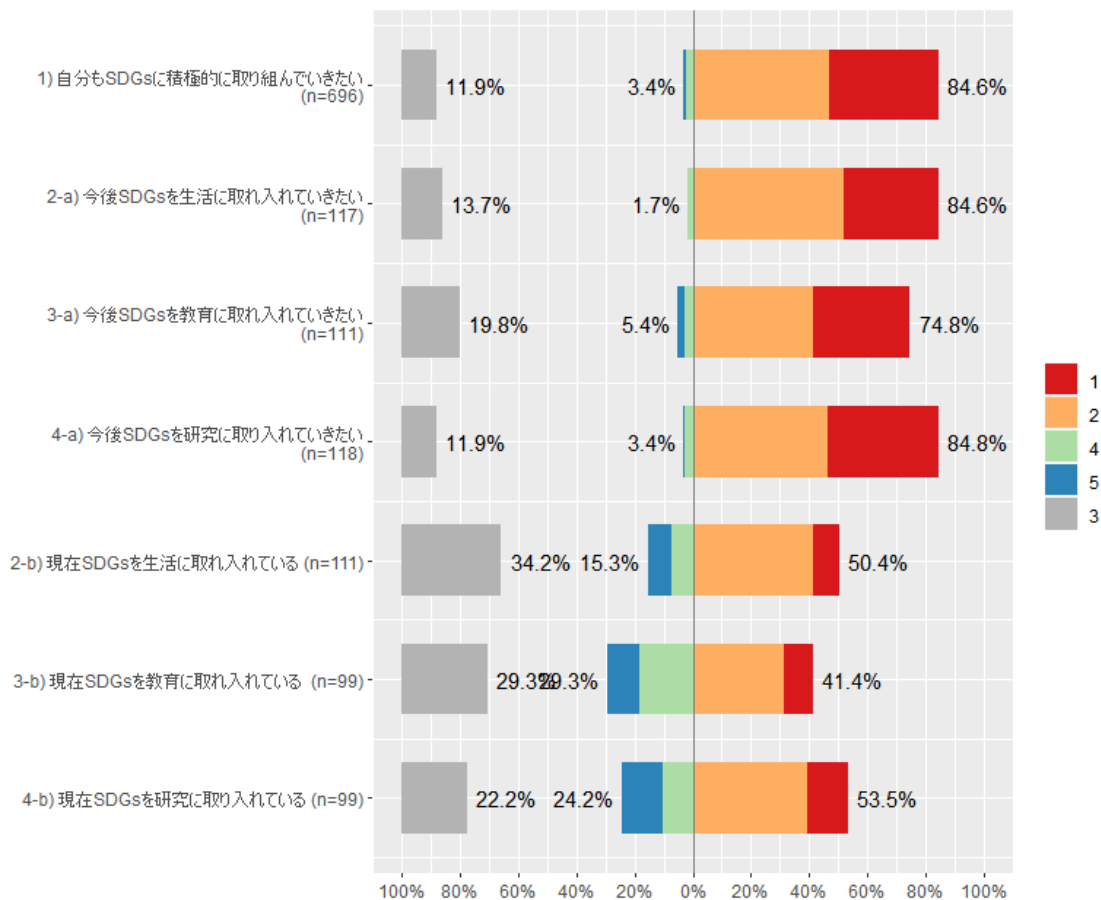


約 8 割の回答者が「自分も SDGs に積極的に取り組んでいきたい」に対して前向きな回答をしました。学生 84.6%、職員 78.9%、教員 81.9%が、SDGs に積極的に取り組みたいと意欲的です。(図 4.3.1, 4.3.2 & 4.3.3 の 1 を参照) さらに、多くの回答者が教育や研究に SDGs を取り入れていきたいと回答しましたが、実際に取り入れているのは、その 3 分の 2 にとどまっています。

84.8 %の大学院生、SDGs を研究に取り入れたいと回答しましたが、実際に取り入れていると回答した人は、大学院生 53.5%でした。(図 4.3.1 の 4-a & 4-b 参照).

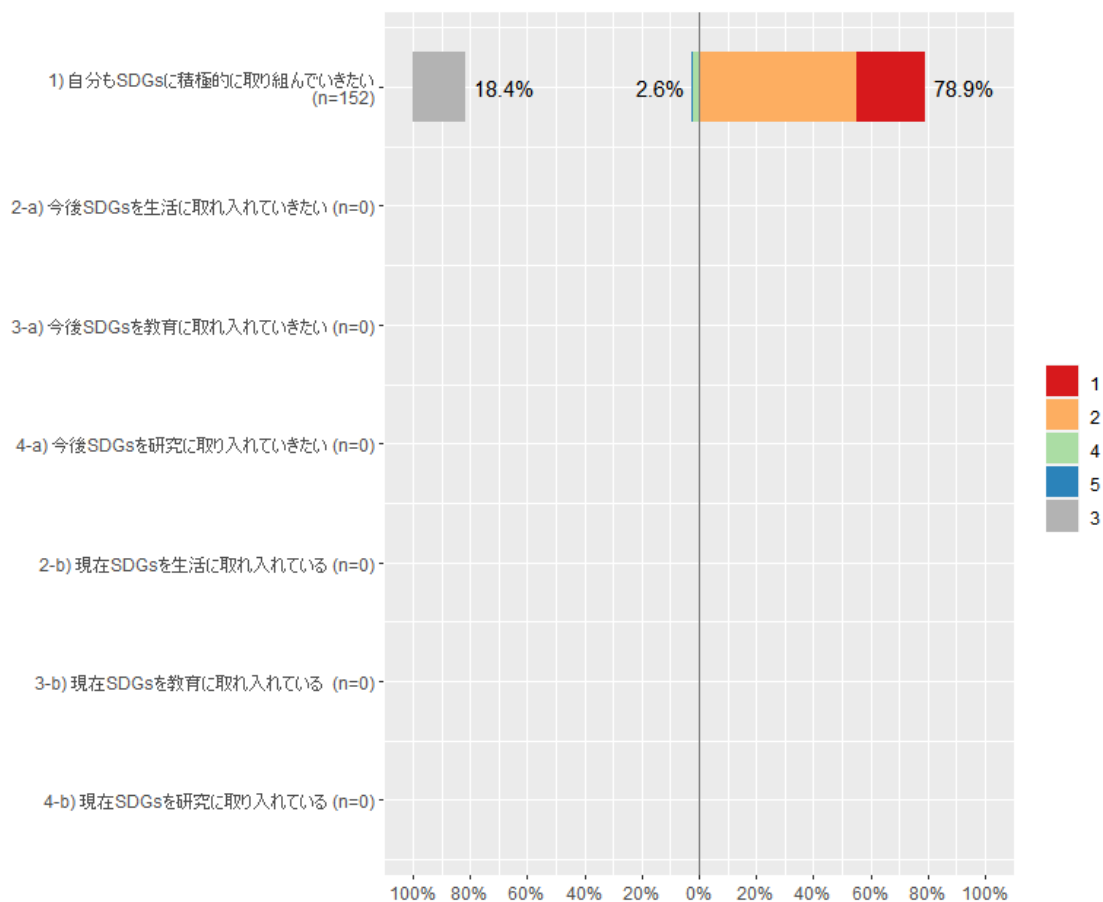
### 4.3.1 学生

2-a)-4-b)は教育と研究に関する設問であるため、2-a)-4-b)は大学院生のみ回答。

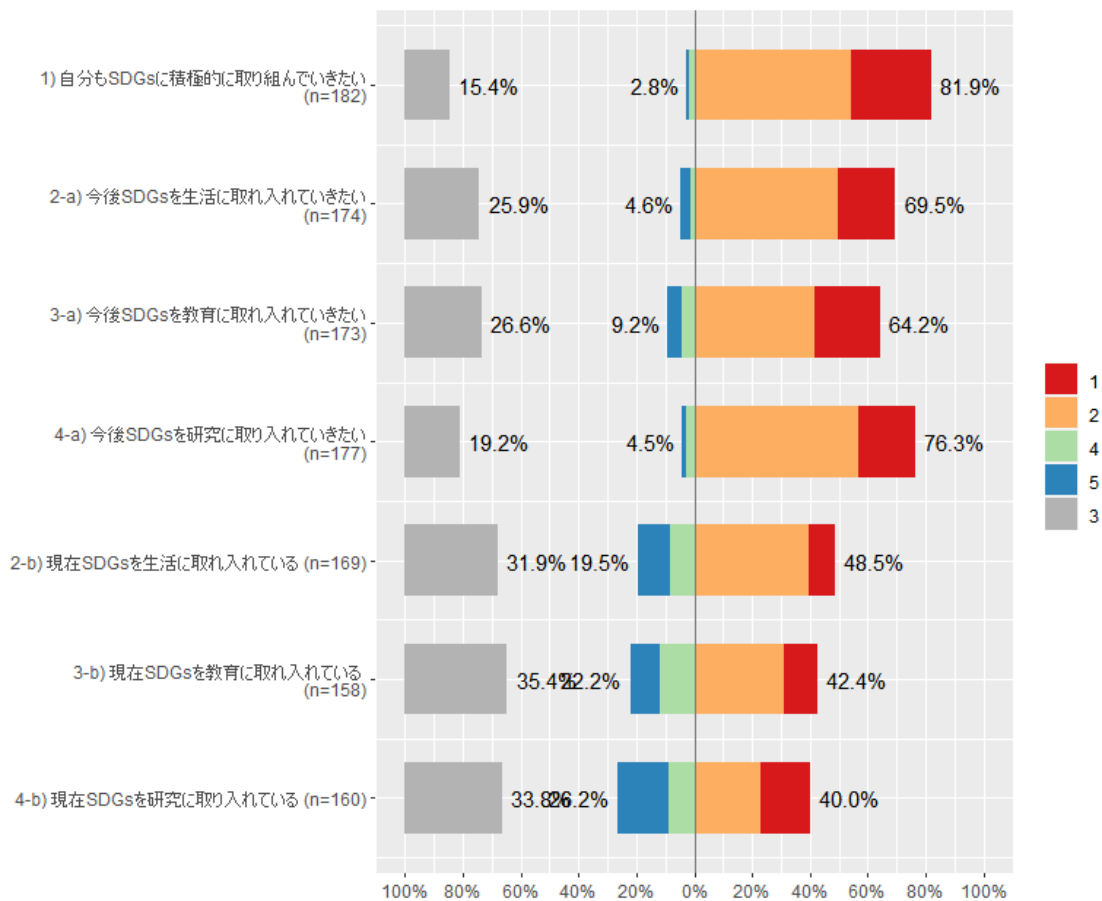


### 4.3.2 職員

2-a)-4-b)は教育と研究に関する設問であるため、職員は1)のみ回答。



### 4.3.3 教員



## 4.4 SDGs 達成に向けた学際的アプローチ

SDGs 達成に向けた学際的アプローチに関する意識を測るために、大学院生と教員に次の文章に対して最も当てはまるものを 5 段階で答えてもらいました。

1-a) SDGs を達成するためには、大学教育に学際的なアプローチが必要だ

2-a) SDGs を達成するためには、研究に学際的なアプローチが必要だ

1-b) 教育に学際的なアプローチを取り入れている

2-b) 研究に学際的なアプローチを取り入れている

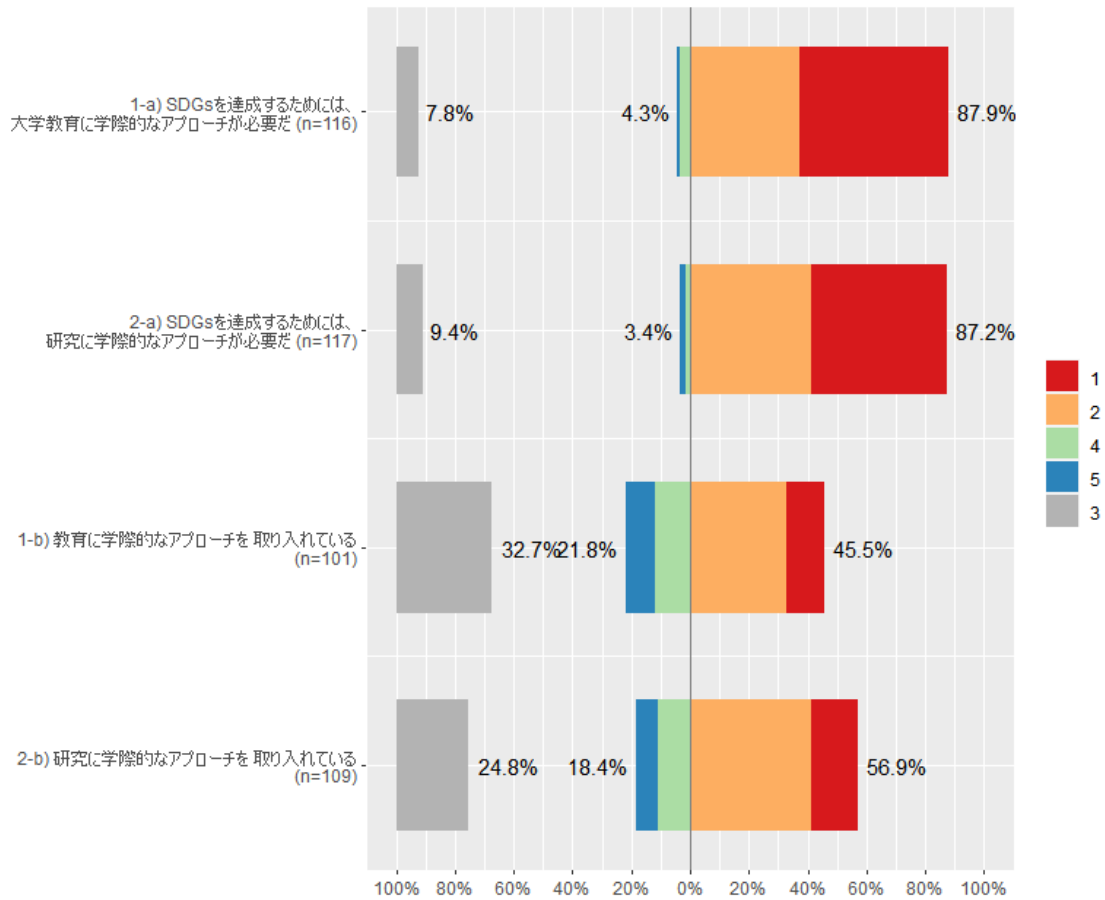
スケールは次のとおりです。

1. そう思う
2. どちらかと言えばそう思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない
5. そう思わない
6. あてはまらない (欠損として処理)

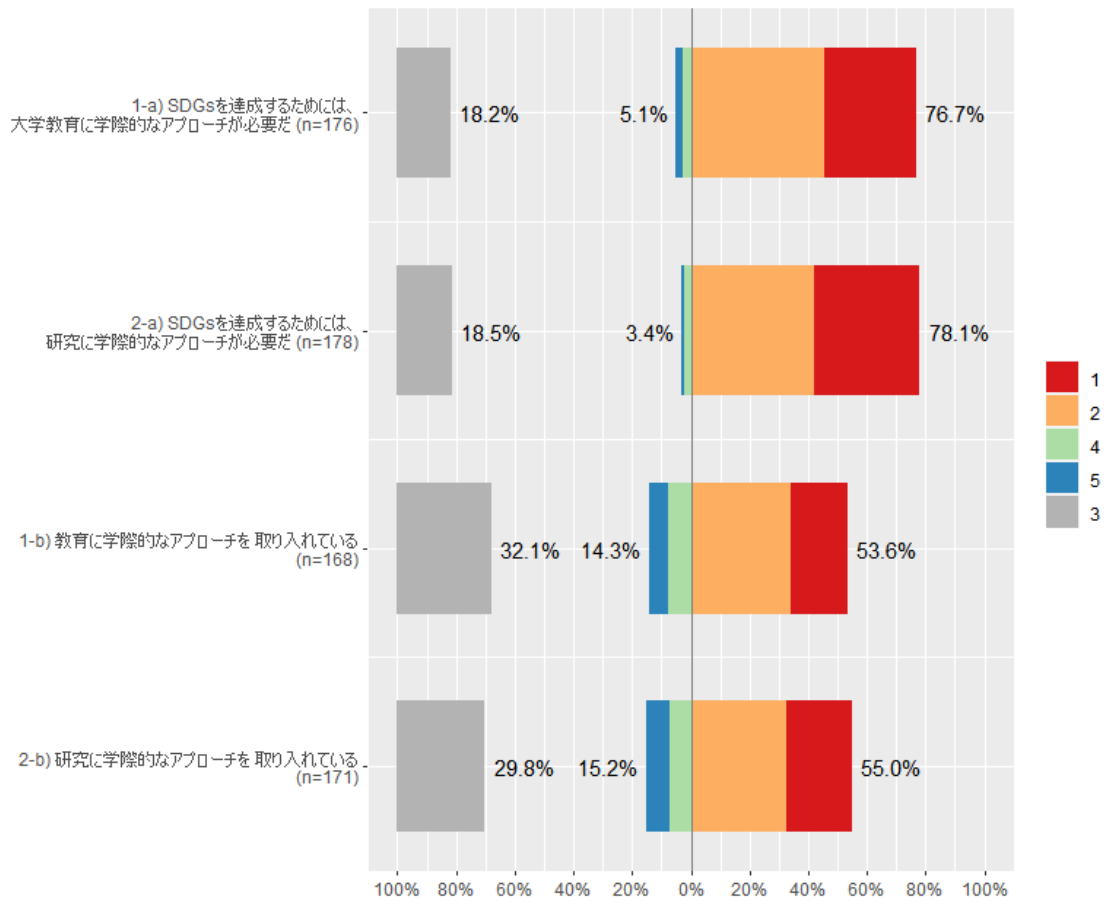
87%の大学院生が SDGs を達成するためには大学教育や研究に学際的アプローチが必要と回答していますが、実際に取り入れているのは教育は 45%で、研究は 56.9%にとどまりました (図 4.4.1 参照).

#### 4.4.1 学生

大学院生のみ回答。



#### 4.4.2 教員



## 4.5 各ゴールに関する意識

SDGs の目標について、「関心がある」こと、「すでに取り組んでいる」こと、「自身が今後貢献していきたい」ことを聞きました。

全回答者に次の項目に関して、最大5つまでゴールを選んでもらいました。

**関心がある SDGs**

**すでに取り組んでいる SDGs**

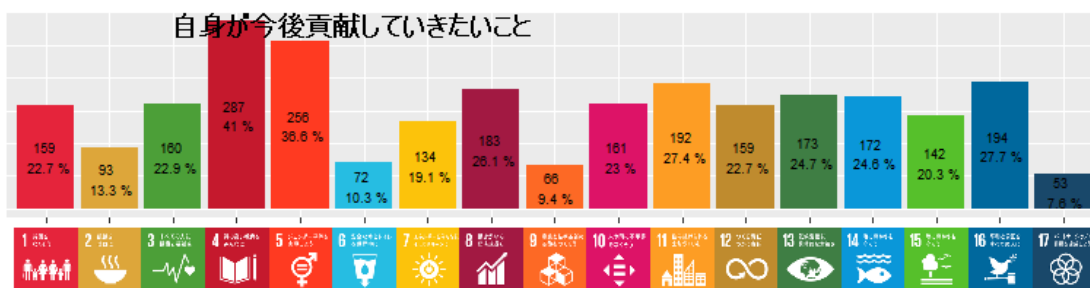
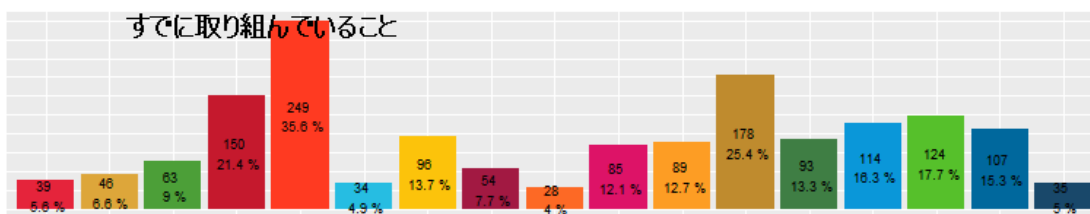
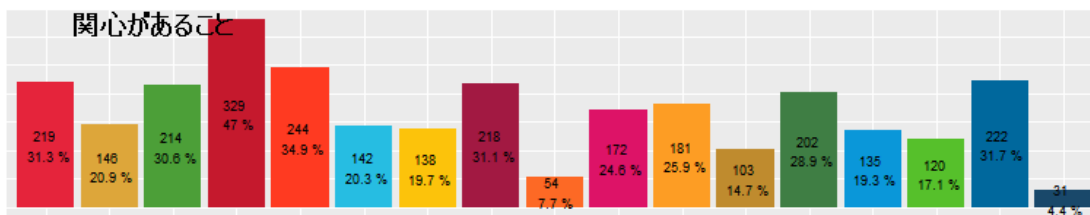
**自身が今後貢献していきたい SDGs**

以下の図の棒に記載されている数字は次のことを表しています。

上: 回答数

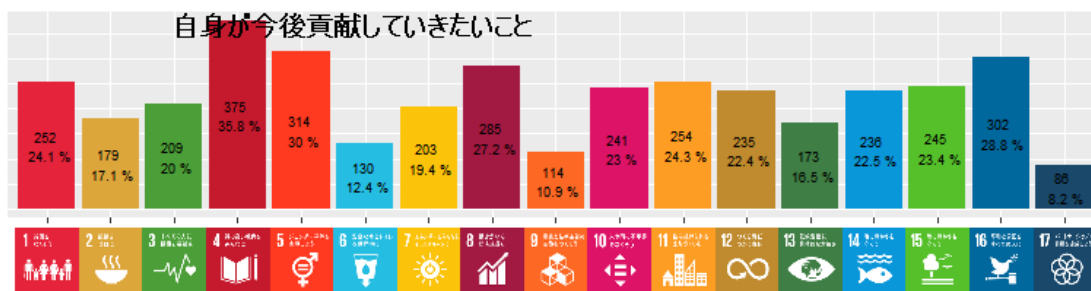
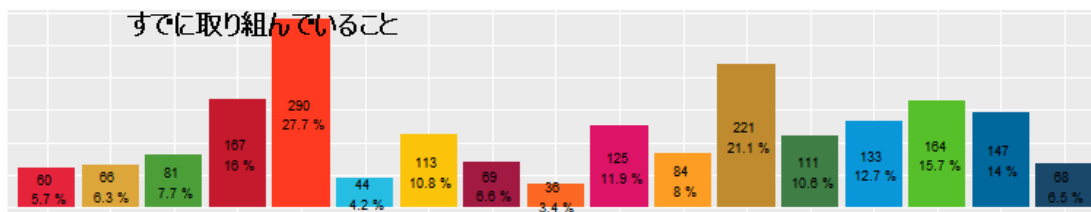
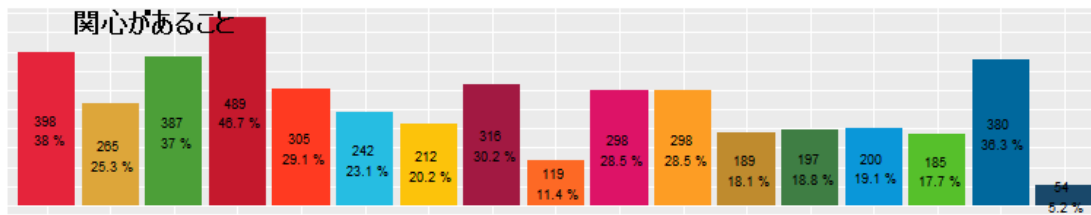
下: 全回答者数に対する回答の割合(一人最大5つまで選択しているため、合計しても100%になりません。)

### 4.5.1 学生(2020年)

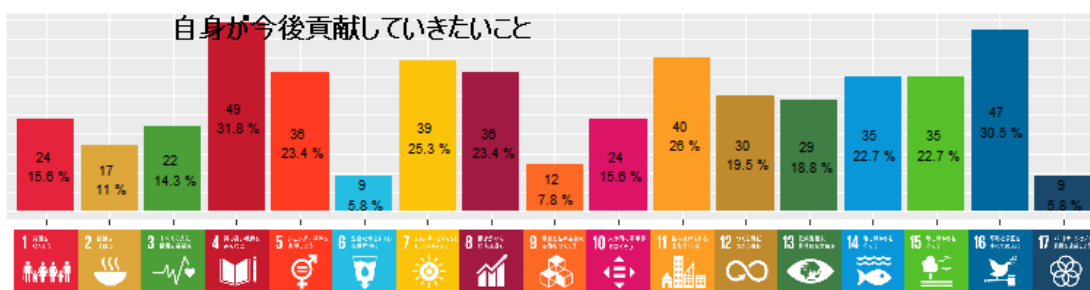
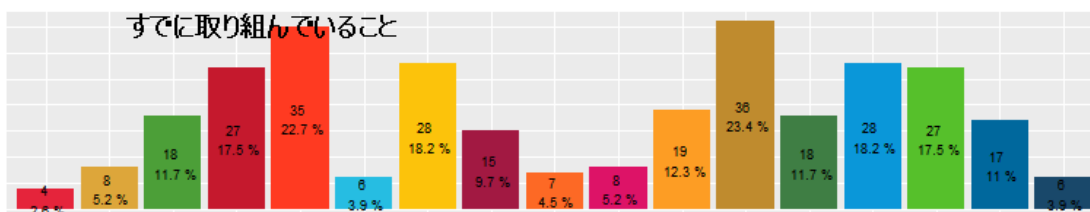
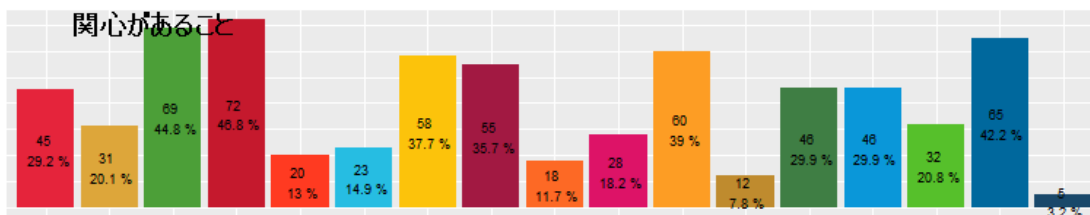




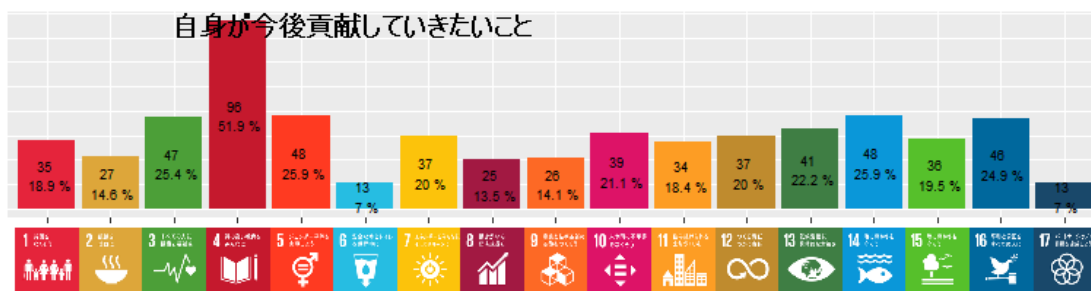
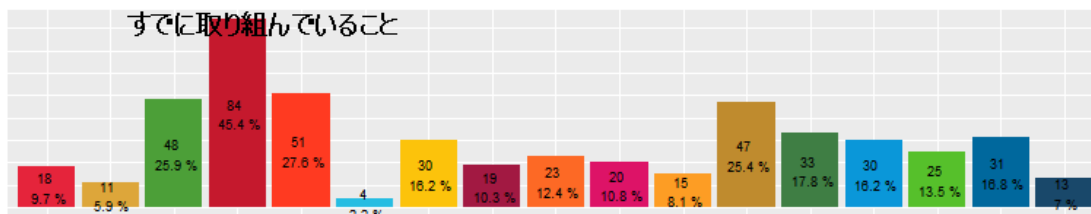
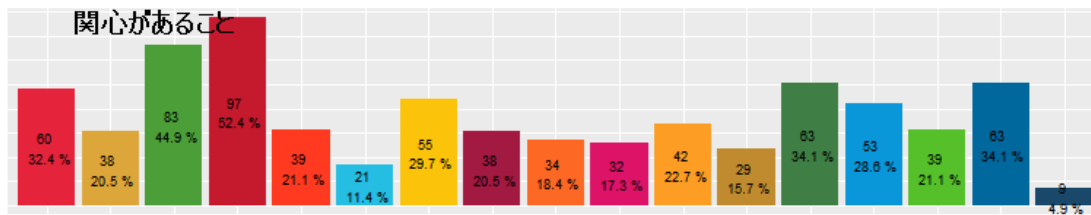
## 4.5.2 学生(2019 年)



### 4.5.3 職員



## 4.5.4 教員



## 4.6 だれが SDGs に対して責任を持つべきか

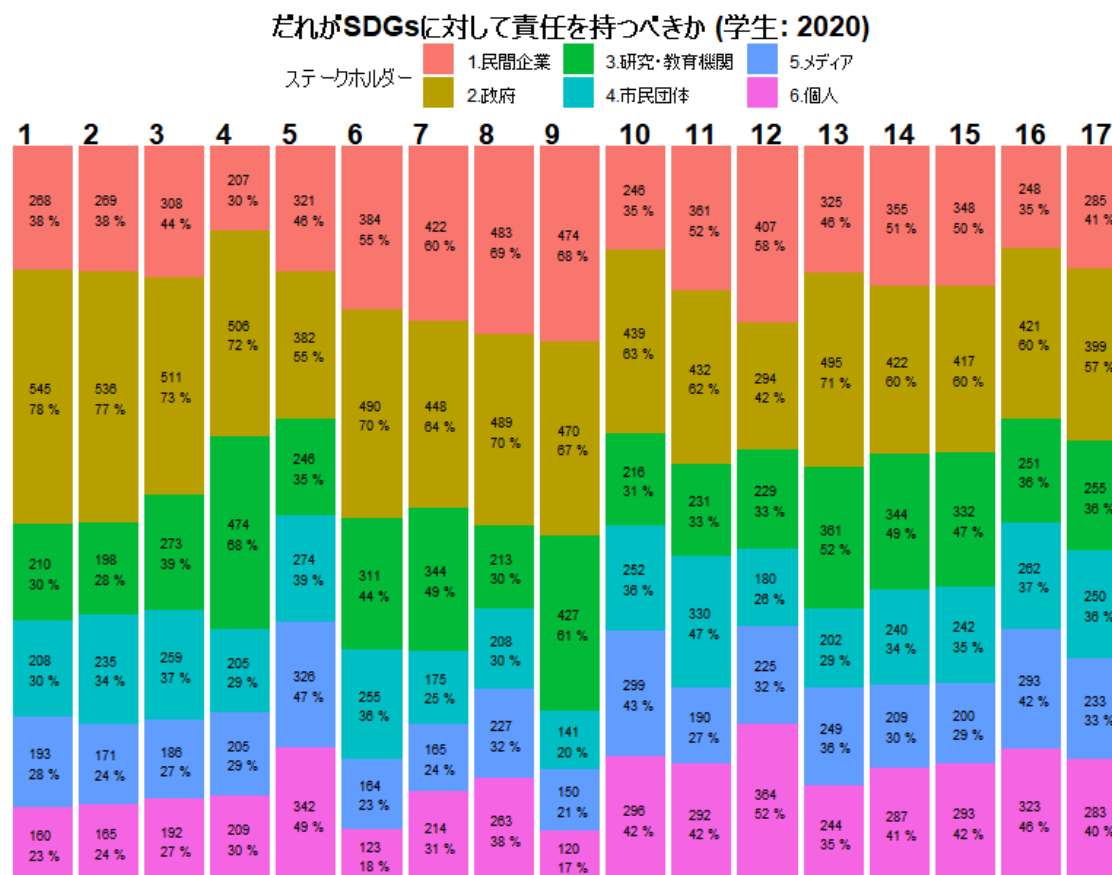
全ての回答者に対して、日本で誰が各 SDG に責任を持つべきか、あてはまるものをすべて答えてもらいました。

以下の図の棒に記載されている数字は次のことを表しています。

上: 回答数

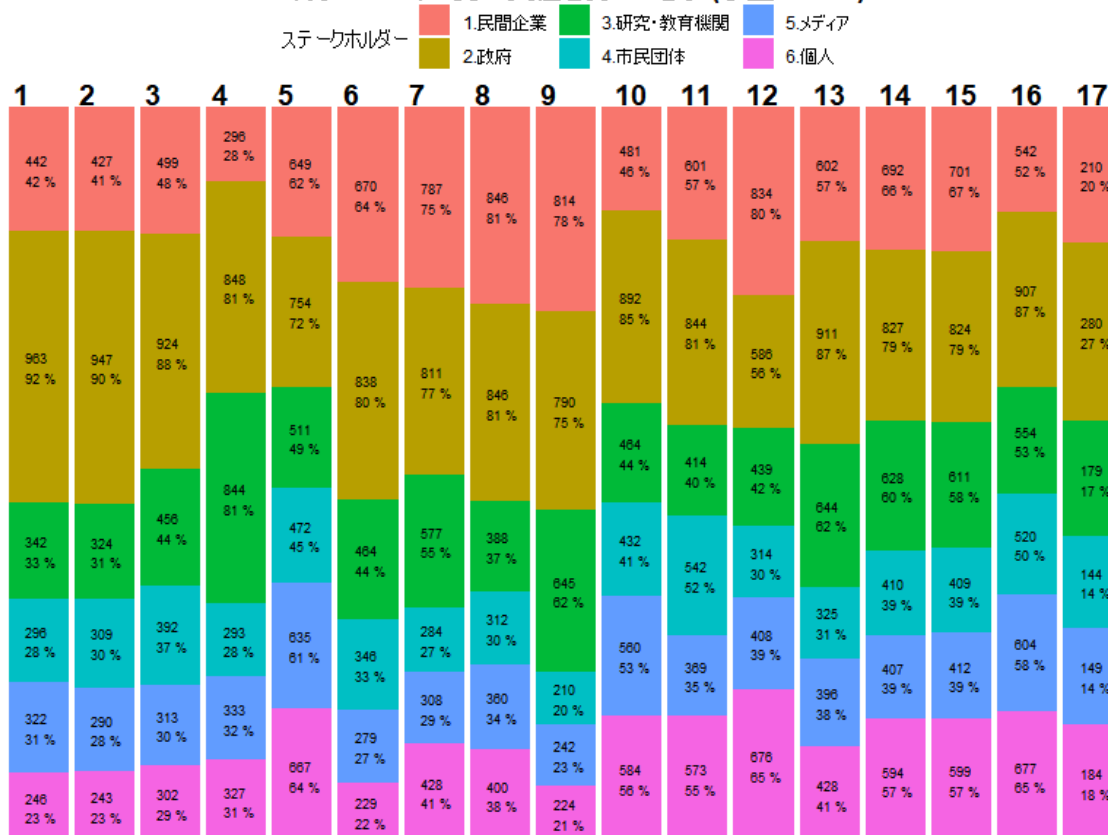
下: 全回答者数に対する回答の割合(すべてのステークホルダーを選択しているため、合計しても 100% になりません。)

### 4.6.1 学生(2020 年)



## 4.6.2 学生(2019 年)

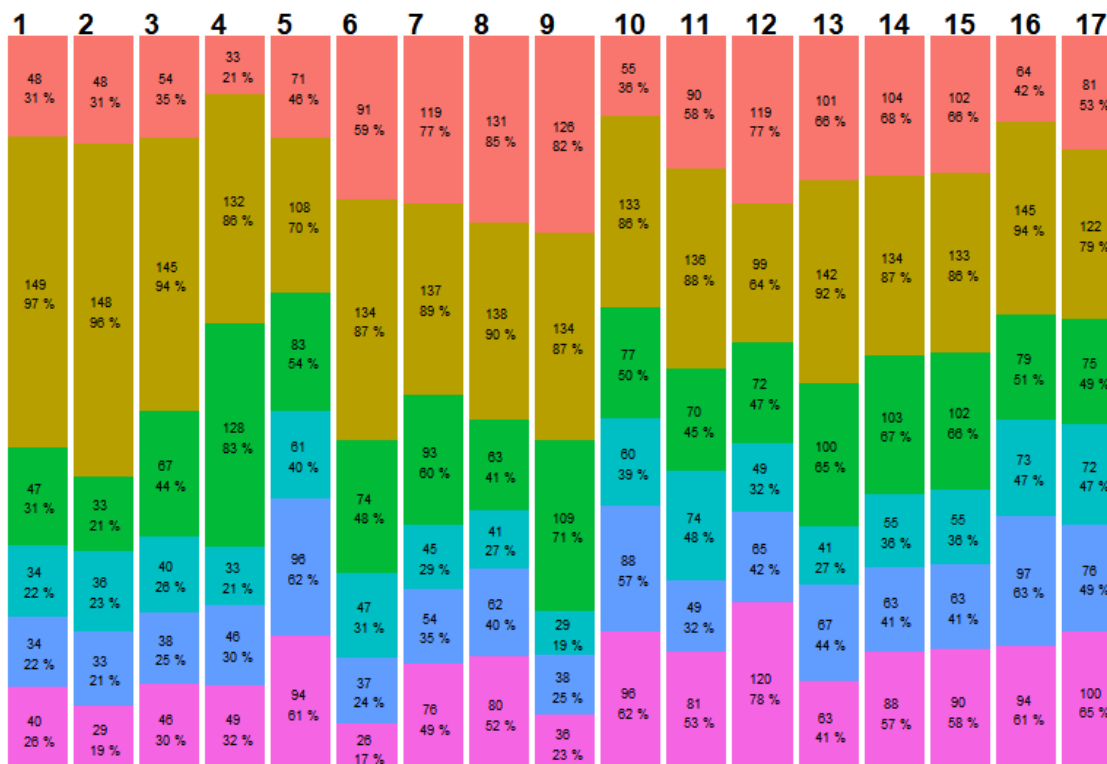
だれがSDGsに対して責任を持つべきか (学生: 2019)



### 4.6.3 職員

だれがSDGsに対して責任を持つべきか (職員)

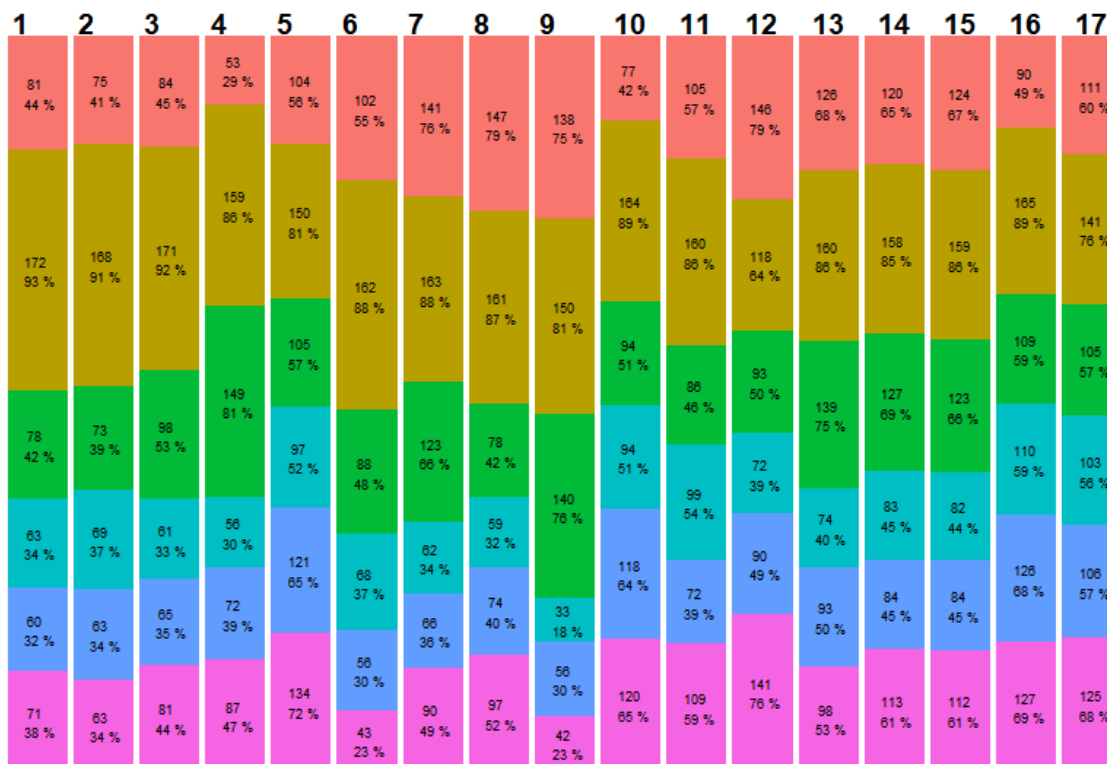
ステークホルダー 1.民間企業 2.政府 3.研究・教育機関 4.市民団体 5.メディア 6.個人



## 4.6.4 教員

だれがSDGsに対して責任を持つべきか (教員)

ステークホルダー 1.民間企業 2.政府 3.研究・教育機関 4.市民団体 5.メディア 6.個人



## 4.7 NERPS の認知度



# NERPS

広島大学FE・SDGsネットワーク拠点  
NETWORK FOR EDUCATION AND RESEARCH  
ON PEACE AND SUSTAINABILITY

広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点(NERPS: Network for Education and Research on Peace and Sustainability、ナープス)は、多様なアクターとの連携を土台とした超学際研究「Peace and Sustainability」の推進と、広島大学での SDGs に関する活動の学内拠点となることを目的として、2018 年に設置されました。

学内における NERPS の認知度を理解して NERPS の活動を更に発展させるために、全回答者に次の項目で当てはまるものを全て答えてもらいました。

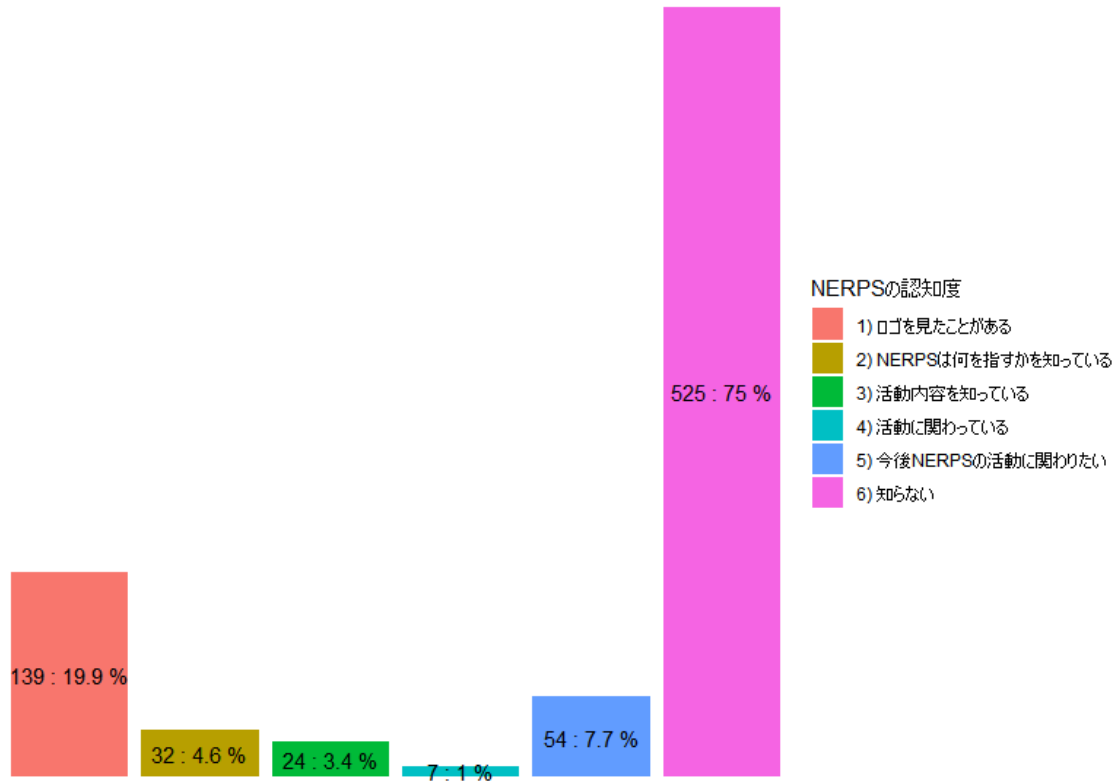
1. ロゴを見たことがある
2. NERPS は FE・SDGs ネットワーク拠点 (Network for Education and Research on Peace and Sustainability) 略であることを知っている
3. 活動内容を知っている
4. 活動に関わっている
5. 今後 NERPS の活動に関わりたい
6. 知らない

調査を実施した時点では、NERPS の認知度(ロゴを見たことがあると回答した人の割合)は低く、学生が 19.9%、職員が 33.8%、教員が 25.4%でした。一方で、一定の割合の回答者が今後 NERPS の活動に関わりたいと回答しました。54 名の学生が今後 NERPS の活動に関わりたいと回答しました。



## 4.7.1 学生

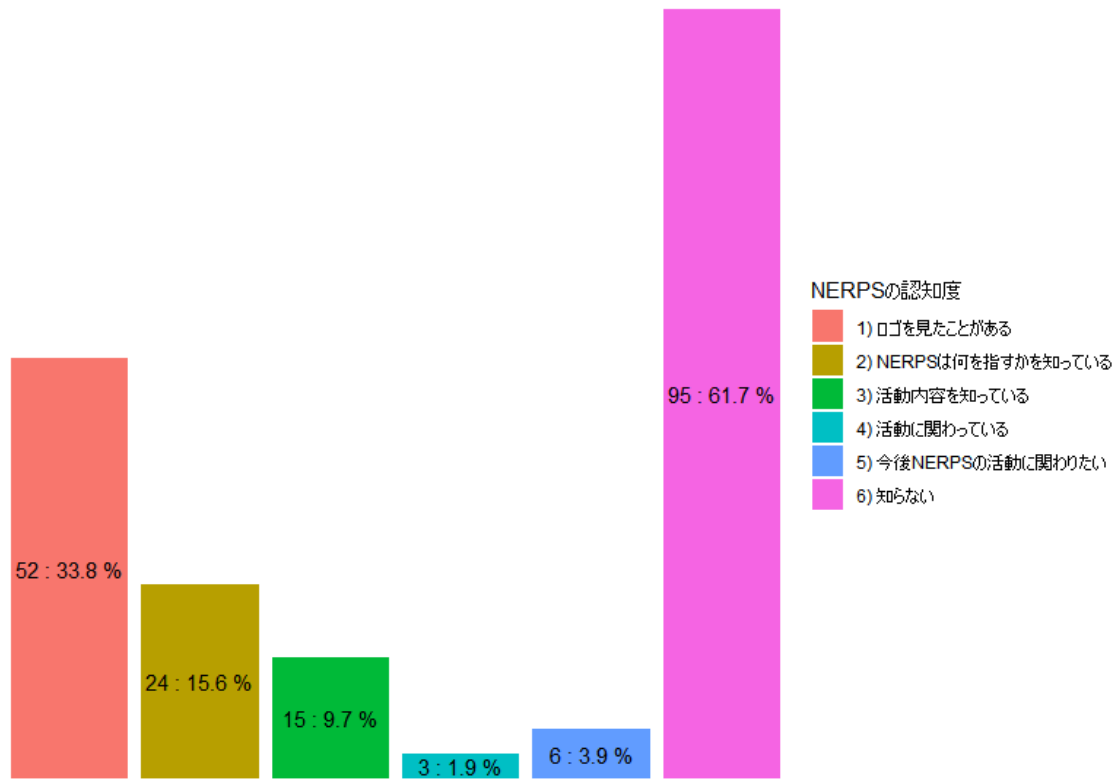
### NERPSの認知度



回答数: 全回答者に対する割合

## 4.7.2 職員

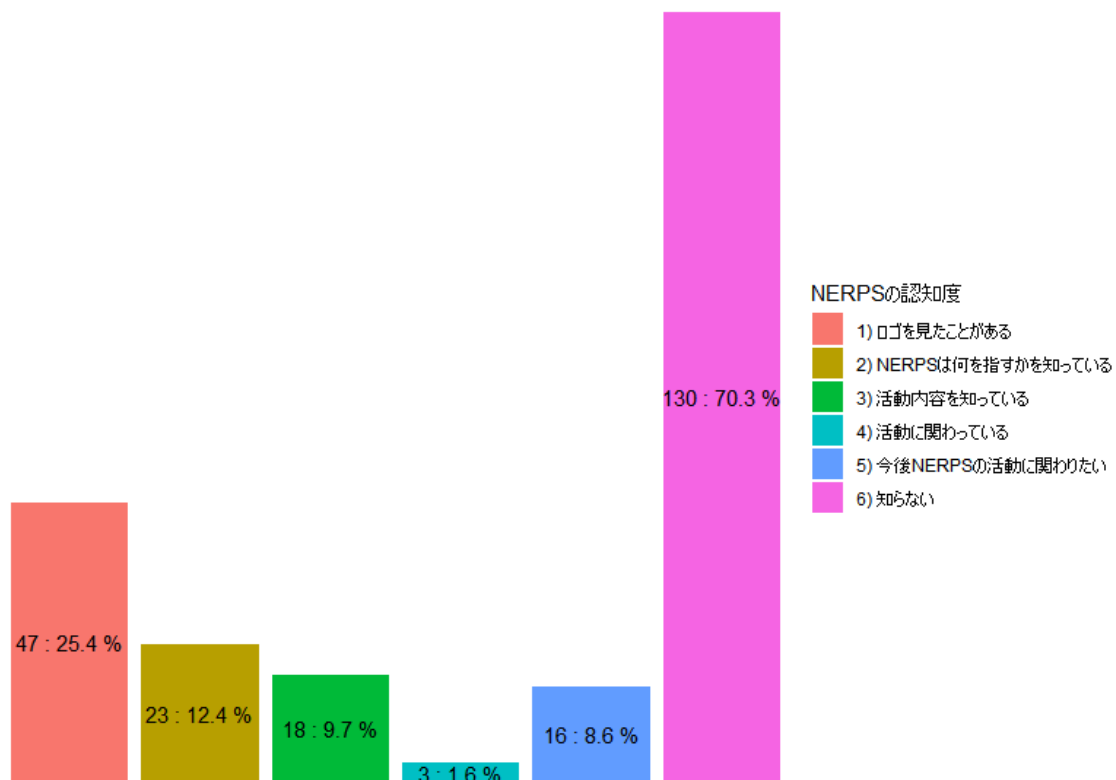
### NERPSの認知度



回答数: 全回答者に対する割合

### 4.7.3 教員

#### NERPSの認知度



回答数: 全回答者に対する割合

最後に、ご協力いただきました皆さまありがとうございました。本報告書が SDGs の達成に向けた取り組みを検討する際に、参考になれば幸いです。



## 1. Foreword

The Sustainable Development Goals (SDGs) is an international agreement adopted by the United Nations in 2015. It consists of 17 goals that comprehensively deal with environmental, social and economic issues. Everyone from either developed or developing countries, including governments, companies, and individuals work together to achieve a sustainable world without leaving anyone behind by 2030.

Universities are important stakeholders in achieving the SDGs. At the same time, university-level contributions to the SDGs will affect the evaluation of a university in addition to the traditional measures such as research and education. In 2019, the Times Higher Education inaugurated University Impact Rankings, which assess universities against the SDGs. Thus, it is essential to examine how universities can play a better role in advancing the SDGs. Furthermore, university community members' active participation in SDGs implementation is the key to success. In this end, we carried out a study to measure perceptions of Hiroshima University community members on the SDGs.

Last year, we conducted a study to assess the awareness of the SDGs targeting Hiroshima University students. To scale up this effort to periodically assess the levels, we expanded the survey to include all Hiroshima University community members. During February and March, 2020, we conducted an online survey and over 1,000 people participated in the survey.

This report provides key findings on the SDGs awareness levels, perceptions on the SDGs, the University members' expectations for their community (school, work, and municipality), and current implementation levels on teaching, research, and daily life.

This study is a part of a joint research project with the International Development Center of Japan and was conducted with the support of the "Hiroshima University Women's Researcher Joint Research Grant Program." This project is recognized as an activity of the Network for Education and Research on Peace and Sustainability (NERPS).

Finally, we want to thank all those who responded to the questionnaire, all administrative and faculty members who supported this project.

March, 2020

Principal Investigator  
Graduate School of International Development and Corporation, Hiroshima University  
Tomomi Yamane /[tomomi@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tomomi@hiroshima-u.ac.jp)

## 2. Brief Overview of the Survey

### 2.1 Outline

This report is organized as follows.

#### 1. Survey outline

It shows survey methods, characteristics of respondents, etc.

#### 2. Key Findings

It shows the key findings of the results.

#### 3. Descriptive Statistics

It shows the descriptive statistics of the individual questions.

### 2.2 Study Methods

#### Study Period

Feb.10-Mar.10, 2020

#### Study Methods

Internet-based Survey

#### Recruiting Respondents

Posted a request twice on Momiji, student information system, and put posters in campus

Requests were sent for staff and faculty members through each department by Research office

#### The 2019 Study

In 2019, approximately a year before the present study, the first awareness survey took place targeting only students. We kept most of the questions the same so that we can compare them.

To compare awareness levels between 2019 and 2020, in this report, we include some results from the 2019 study. Despite the fact that this report only reports simple aggregate results without controlling for unobservable factors, this provides the first indication of trends of SDGs awareness in Hiroshima University.

The 2019 report can be found at

<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00048196>

## 2.3 Breakdowns of Respondents

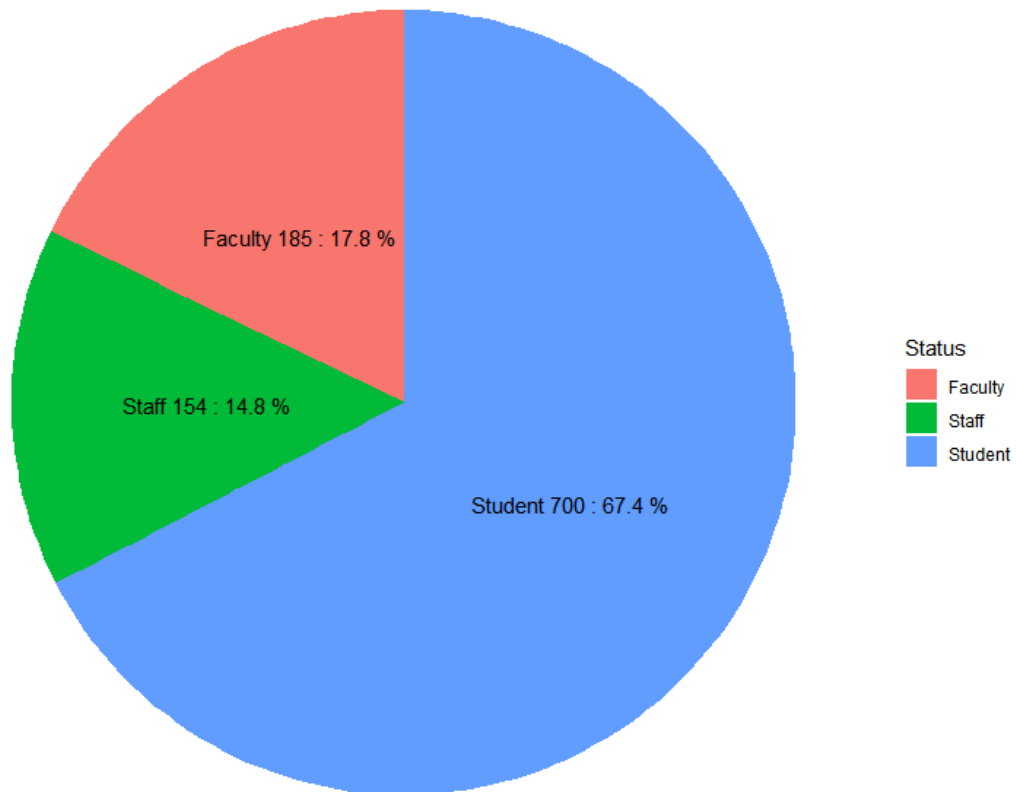
The total number of respondents is 1039 after cleaning incomplete responses. The survey was targeted anyone who belongs to Hiroshima University.

Respondents are categorized into the following groups.

**Students:** both graduate and undergraduate students including non-degree students and alumni.

**Staff:** administrative staff members

**Faculty:** research and education staff members



### 2.3.1 Students

#### Respondents by Department

Student (Total n=700)

Related undergraduate and graduate schools are combined together, if any. Others include alumni and non-degree students.

labels	B1	B2	B3	B4	M1	M2	D1	D2	D3	Other	Total
Integrated Arts and Sciences	10	12	6	11	3	2	3	2	0	3	52
Letters	6	11	9	4	5	2	3	2	1	0	43
Education	18	15	15	31	11	15	4	5	4	3	121
Social Sciences	18	22	16	11	5	0	0	1	2	0	75
Science	13	16	15	14	5	5	2	1	4	1	76
Medicine/Dentistry/Pharmaceutical Sciences	8	10	13	8	2	5	4	2	2	11	65
Engineering	18	20	16	20	18	16	5	2	2	3	120
Applied Biological Science/Biosphere Science	10	7	9	4	1	4	0	0	2	0	37
School of Informatics and Data Science	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	10
GS of Advanced Sciences of Matter	0	0	0	0	2	5	0	0	2	0	9
IDEC	0	0	0	0	11	16	6	2	2	2	39
School of Integrated Sciences for Life	0	0	0	0	12	1	4	0	0	0	17
Other	0	0	0	0	1	0	0	0	1	34	36



### 2.3.2 Staff

#### Respondents by Department

Staff (Total n=154)

	Freq
Office of University Strategy	5
Audit Office	2
Education Office	8
Office of Academic Research and Industry-Government Collaboration	6
Medical Policy Office	2
International Office	5
Financial and General Affairs Office	12
Management Support Office (Higashi-Hiroshima)	29
Management Support Office (Higashisenda)	1
Management Support Office (Kasumi)	9
Hospital	36
Other (Higashi-Hiroshima)	23
Other (Higashisenda)	1
Other (Kasumi)	15

### 2.3.3 faculty

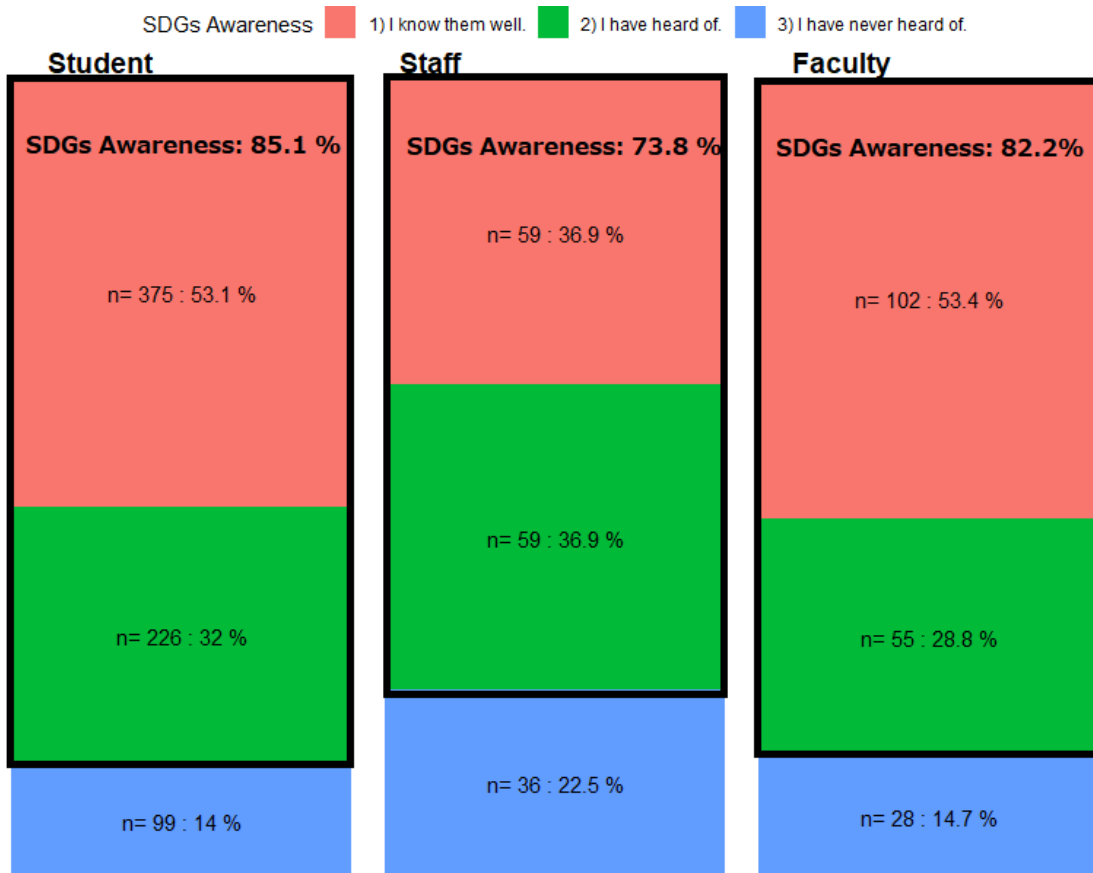
#### Respondents by Department Faculty (Total n=185)

	Freq
GS of Integrated Arts and Sciences	11
GS of Letters	7
GS of Education	18
GS of Social Sciences	2
GS of Science	13
GS of Advanced Sciences of Matter	5
GS of Biomedical & Health Sciences	53
GS of Engineering	20
IDEC	10
Law School	1
GS of Integrated Sciences for Life	21
Research Center	11
Others	13

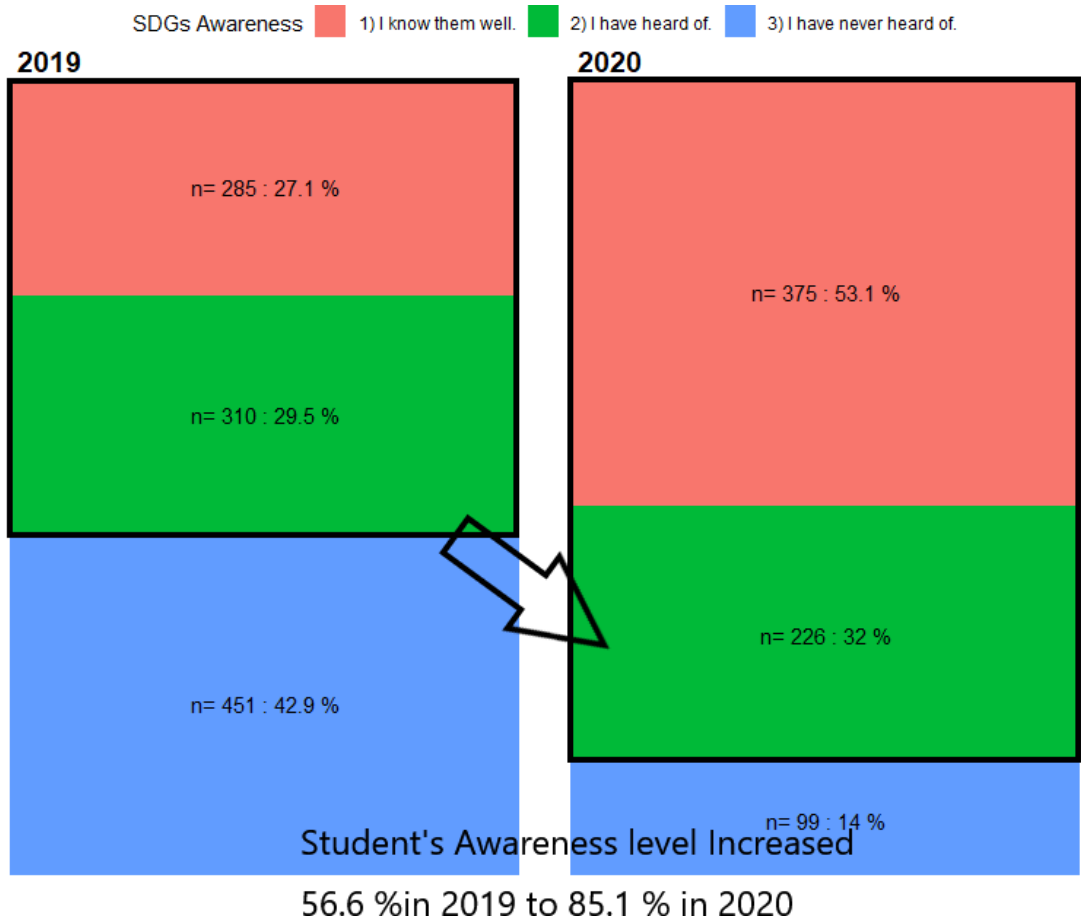
### 3. Key Findings

The SDGs awareness levels at Hiroshima University are **85.10 % for students, 73.80% for staff, and 82.20% for faculty**. For detail, see 4.1.1.

We define SDGs awareness level as a ratio of respondents who have at least heard of the SDGs.

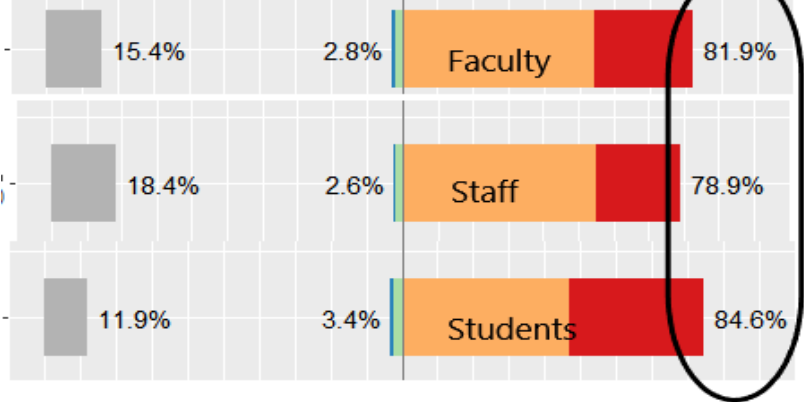


Compared with the result of 2019, the SDG awareness level among students rose rapidly, increasing by almost 30 points from 56.60 % in 2019 to 2020's 85.1%. For detail, see 4.1.2.

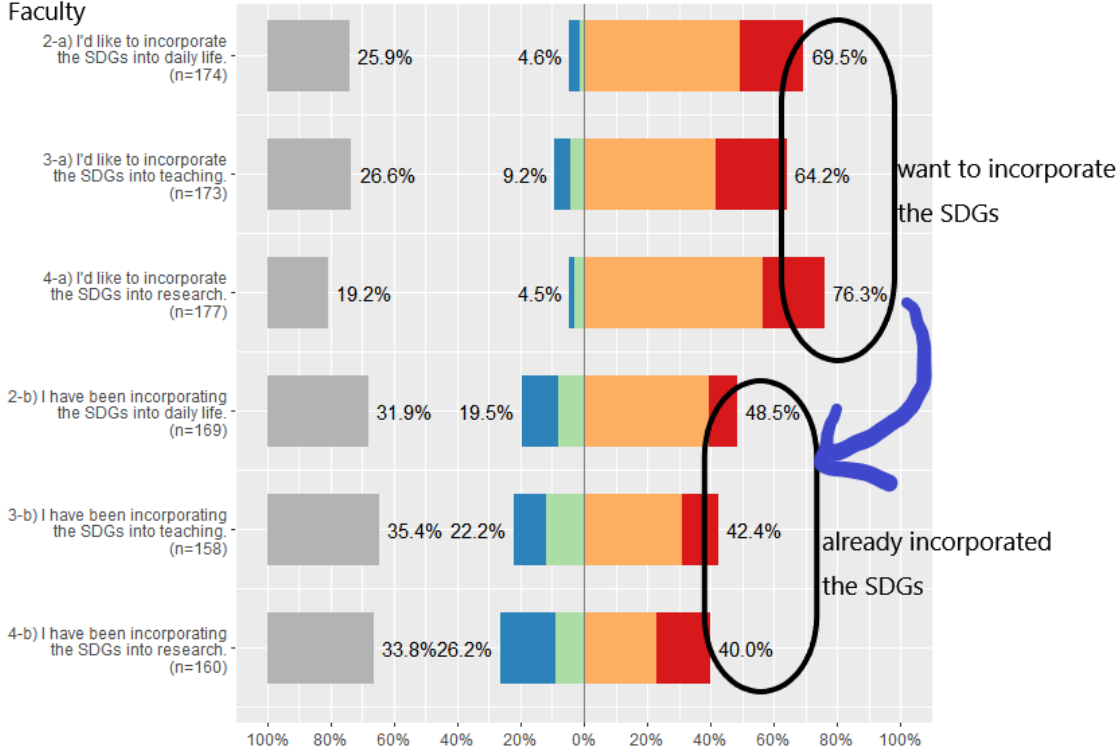


**Approximately 80 % of respondents are willing to actively become involved in SDGs implementation.** The results show that 84.6 % of all the students, 78.9 % of staff members, and 81.9 % of faculty members want to be involved in SDGs implementation. For detail, see 1 in Figures 4.3.1, 4.3.2 & 4.3.3.

**80 %: Willing to Get Involve in SDGs Implementation.**



**Although 84.8 % of graduate students and 76.3 % of faculty members want to incorporate the SDGs into their research, only 53.5 % of graduate students and 40.0 % of faculty members have done so.** For detail, see 4-a & 4-b in 4.3.1 & 4.3.2.



## 4. Descriptive Statistics

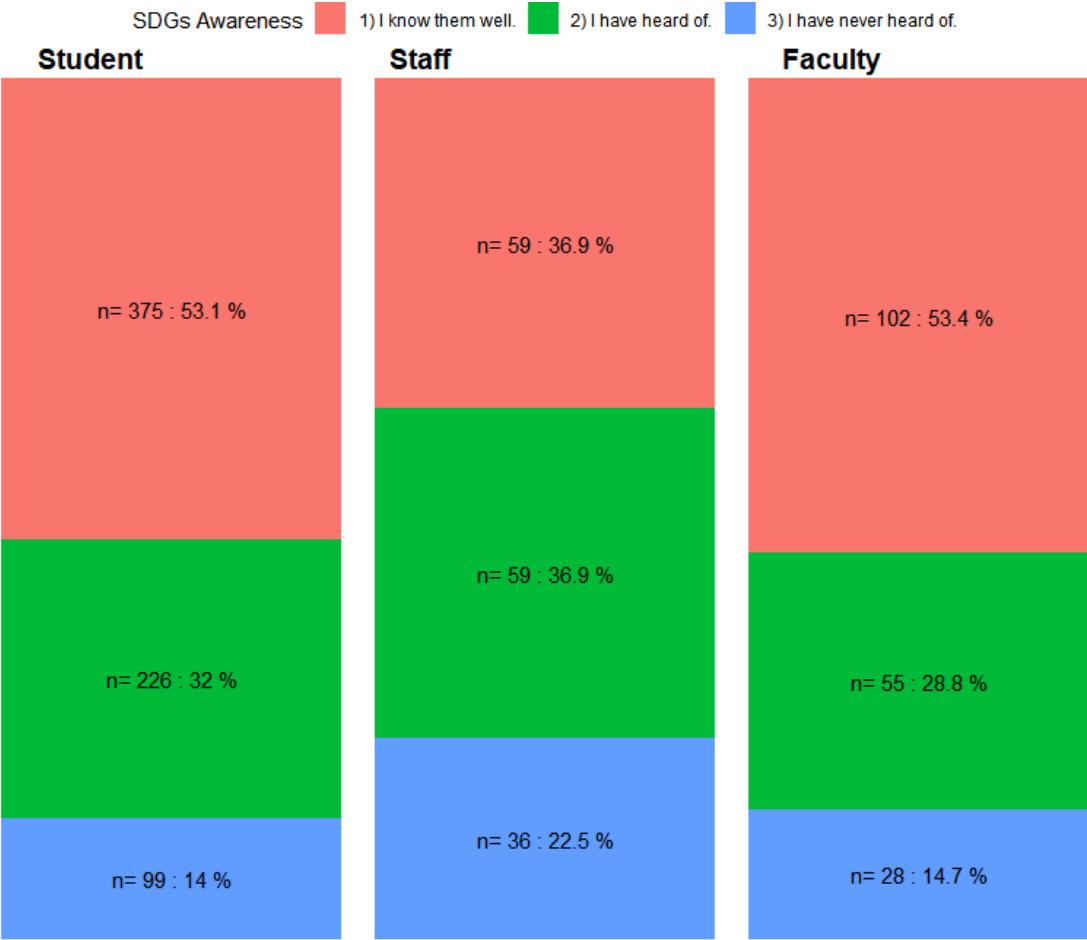
### 4.1 SDGs Awareness

All the respondents were asked “**Have you already known about the SDGs before doing this questionnaire?**” and chosen a response from the following three choices:

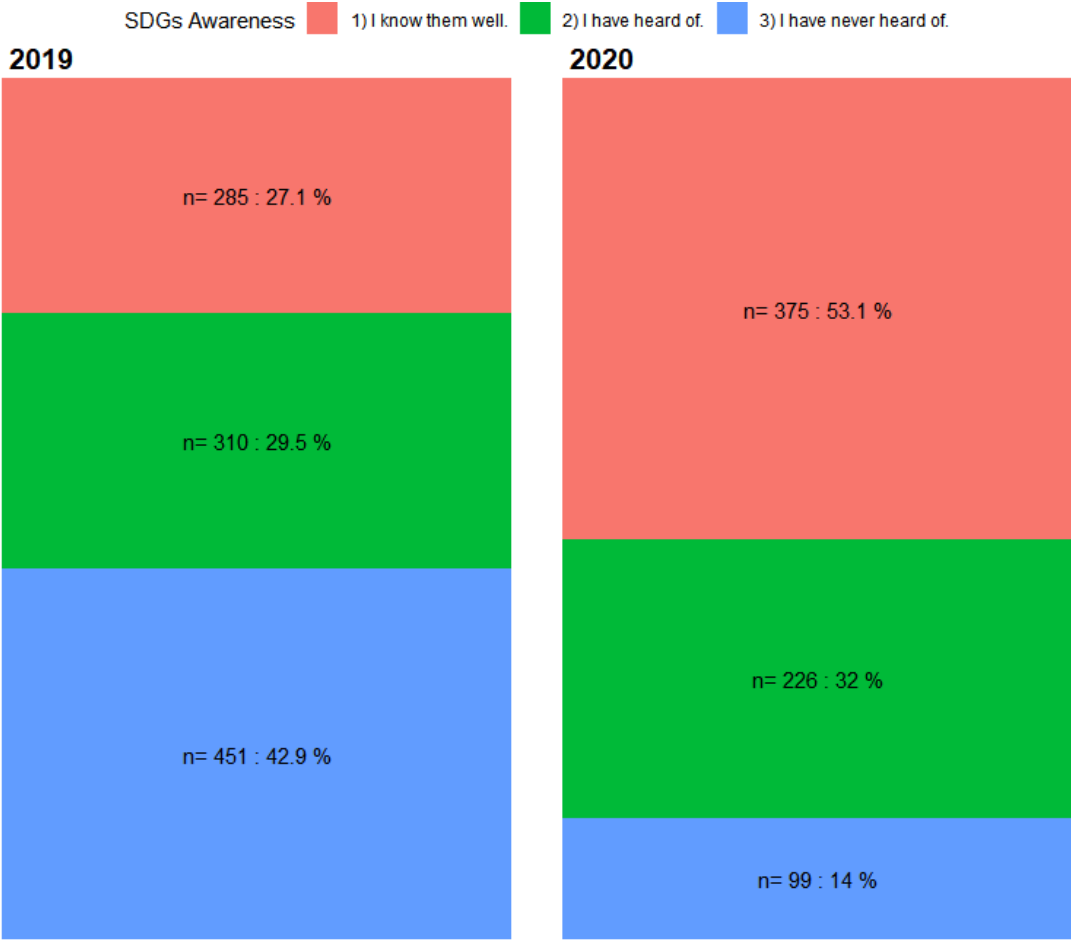
- 1) Yes, I have heard of them and know them well.
- 2) I have heard of them, but I don't know what they mean.
- 3) No.

We define the SDGs awareness level as a ratio of respondents who have at least heard of the SDGs, which means that those who chose choice 1) or 2). The SDGs awareness levels at Hiroshima University are 85.10 % for students, 73.80% for staff, and 82.20% for faculty (see 4.1.1). Comparing with the result of 2019, the SDG awareness level rose rapidly. The student's awareness level was 56.60 % in 2019 (see 4.1.2).

### 4.1.1 The SDGs Awareness of 2020



### 4.1.2 The SDGs Awareness of 2019 and 2020





## 4.2 University Members' Expectations to the Community regarding SDGs implementations

To measure their expectations to their community regarding SDGs implementations, all respondents were asked to rate on a five-point scale if they strongly agree (1) or disagree (5) with the following statements:

- 1) I hope the municipality I am currently living in gets actively involved in the SDGs.
- 2) I hope the school/company I currently belong to gets actively involved in the SDGs.
- 3) If I were to move to a different location in the future, I wish to live in a municipality that is actively involved in the SDGs
- 4) If I were to get a job or change occupation, I wish to work for a company that is actively involved in the SDGs.

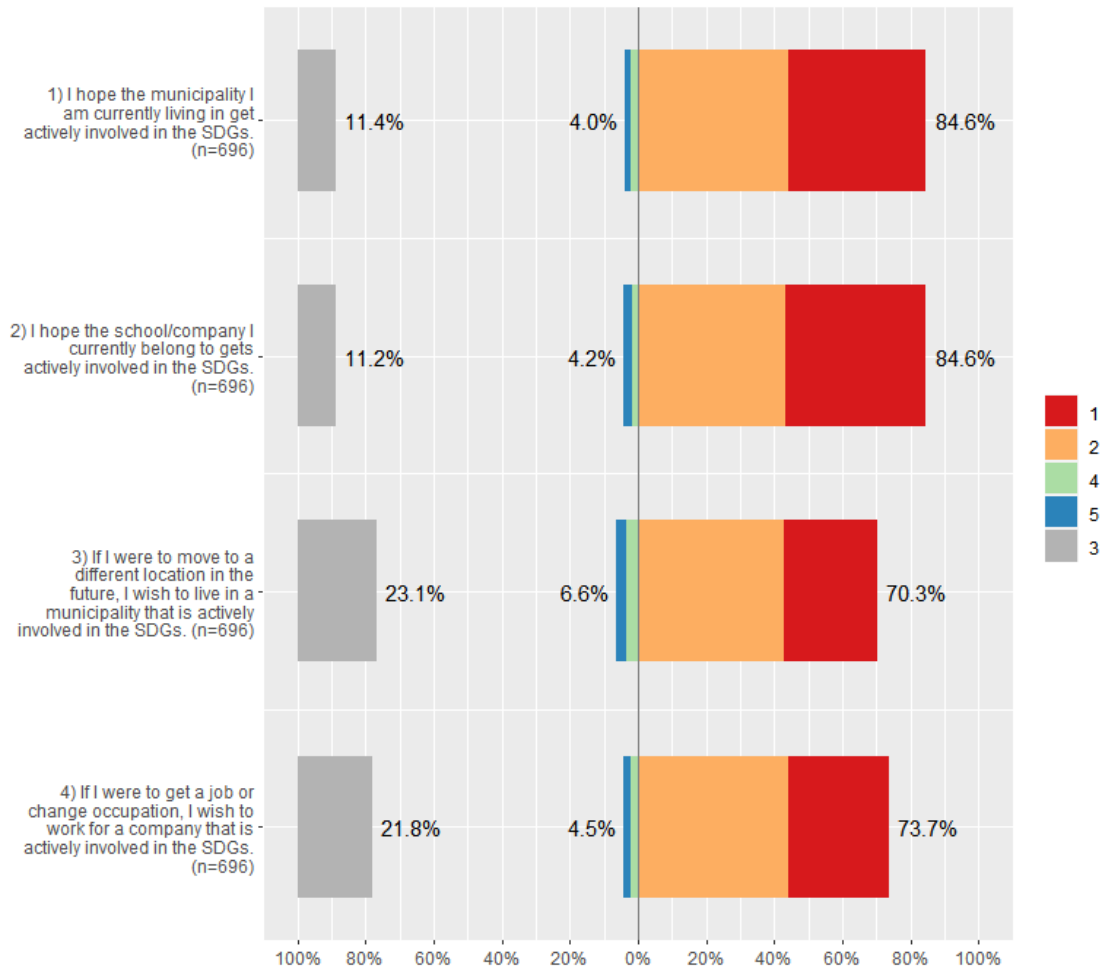
The scale indicates as follows:

- (1) Strongly agree
- (2) Somewhat agree
- (3) Neither agree nor disagree
- (4) Somewhat disagree
- (5) Strongly disagree

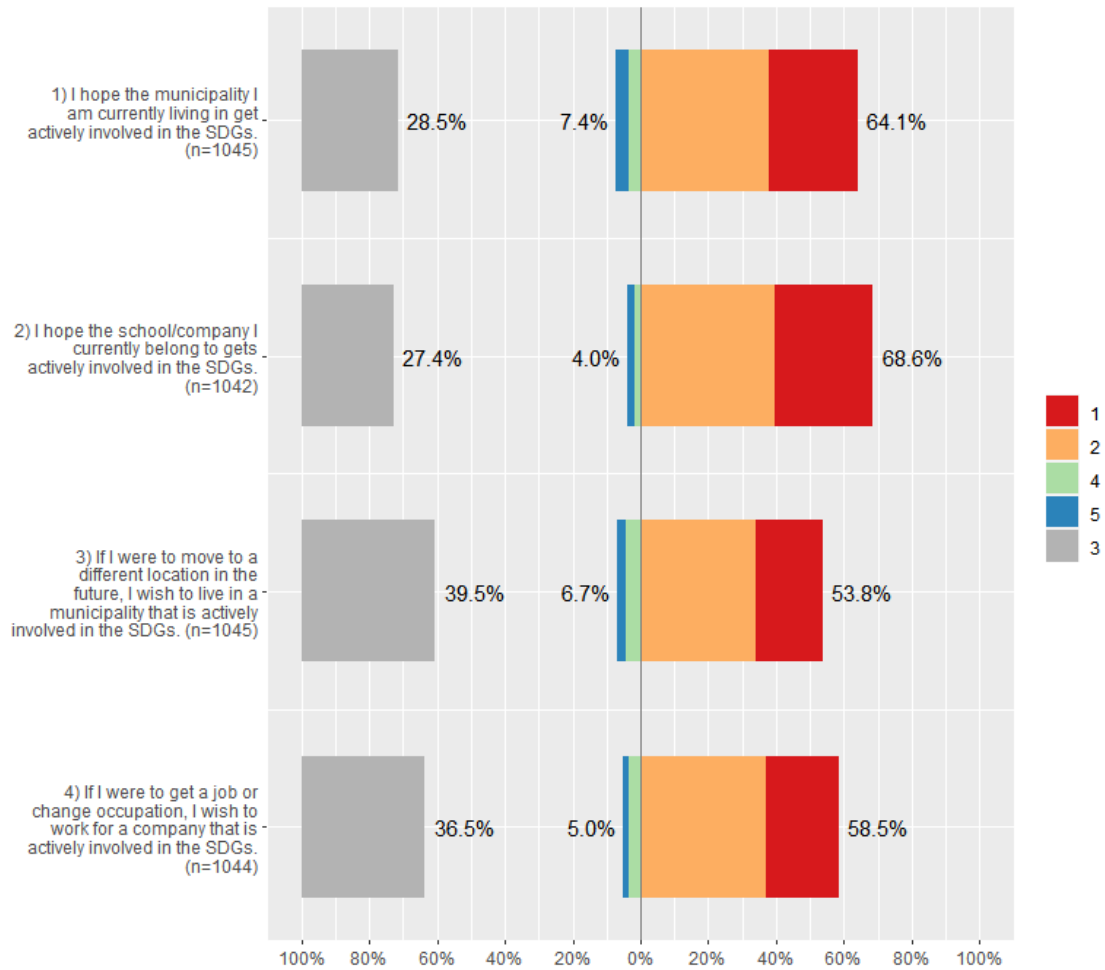
Bars on the right side (Choices 1 & 2) indicates that positive reaction to given statements in Figures 4.2.1 to 4.2.4.

Approximately 80 % of respondents hope their community that they belong to such as municipality, school, and company to get actively involved in the SDGs. Comparing with the 2019 study, an expectation among students to those communities increased. In 2019, 64.1 % of students had hoped that their municipality to be actively involved in the SDGs, but the ratio increased to 84.6 % in 2020. As the SDGs awareness level increased, their expectation to the community to be actively involved in SDGs implementations increased as well.

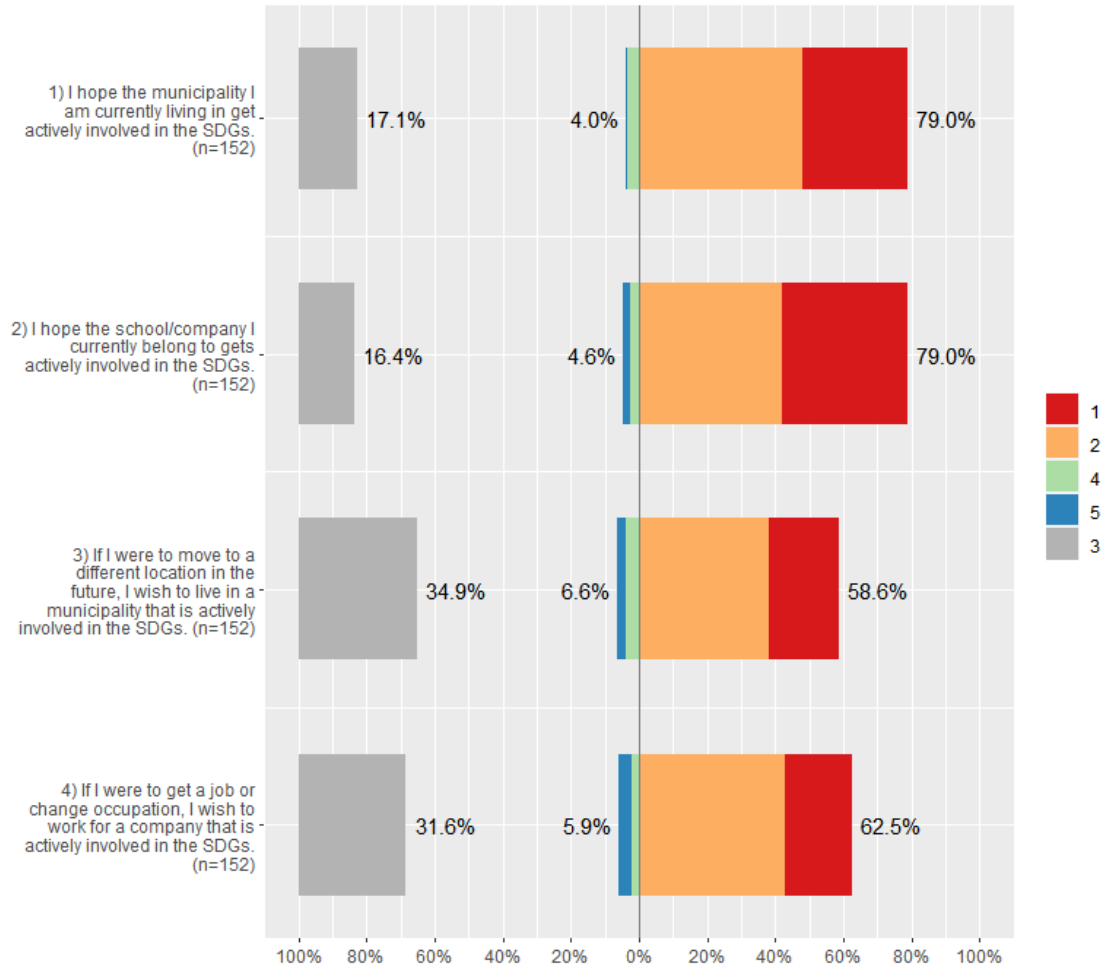
## 4.2.1 Student 2020



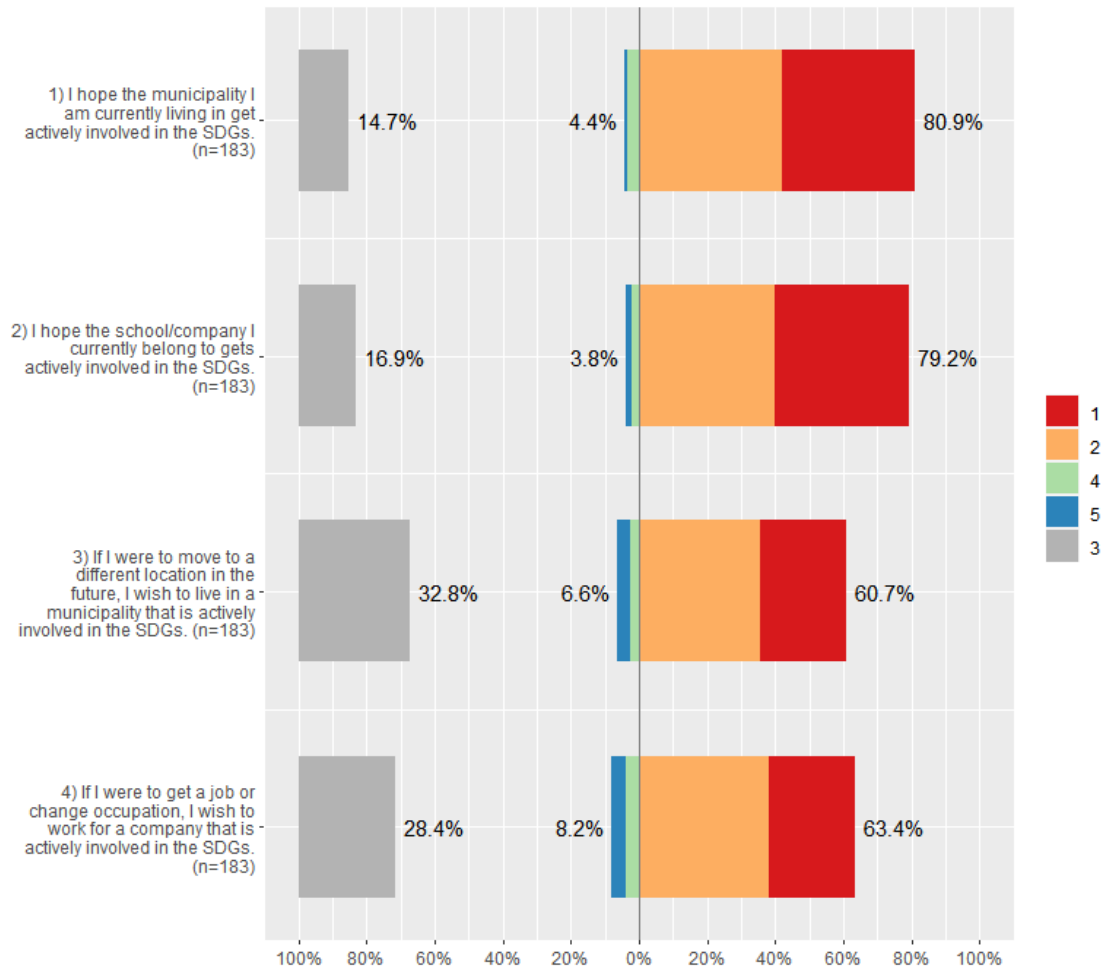
## 4.2.2 Student 2019



### 4.2.3 Staff



## 4.2.4 Faculty



### 4.3 SDGs implementation

To measure willingness to support SDGs implementations and the current status of its implementations, all respondents were asked to rate on a five-point scale if they strongly agree (1) or disagree (5) with the following statements:

1) I'd like to actively be involved in SDGs implementation.

The scale indicates as follows:

- (1) Strongly agree
- (2) Somewhat agree
- (3) Neither agree nor disagree
- (4) Somewhat disagree
- (5) Strongly disagree

To further investigate willingness to incorporate the SDGs in research and education, graduate students and faculty members were asked to rate on a five-point scale if they strongly agree (1) or disagree (5) with the following statements:

2-a) I'd like to incorporate the SDGs into daily life.

3-a) I'd like to incorporate the SDGs into teaching.

4-a) I'd like to incorporate the SDGs into research.

2-b) I have been incorporating the SDGs into daily life.

3-b) I have been incorporating the SDGs into teaching.

4-b) I have been incorporating the SDGs into research.

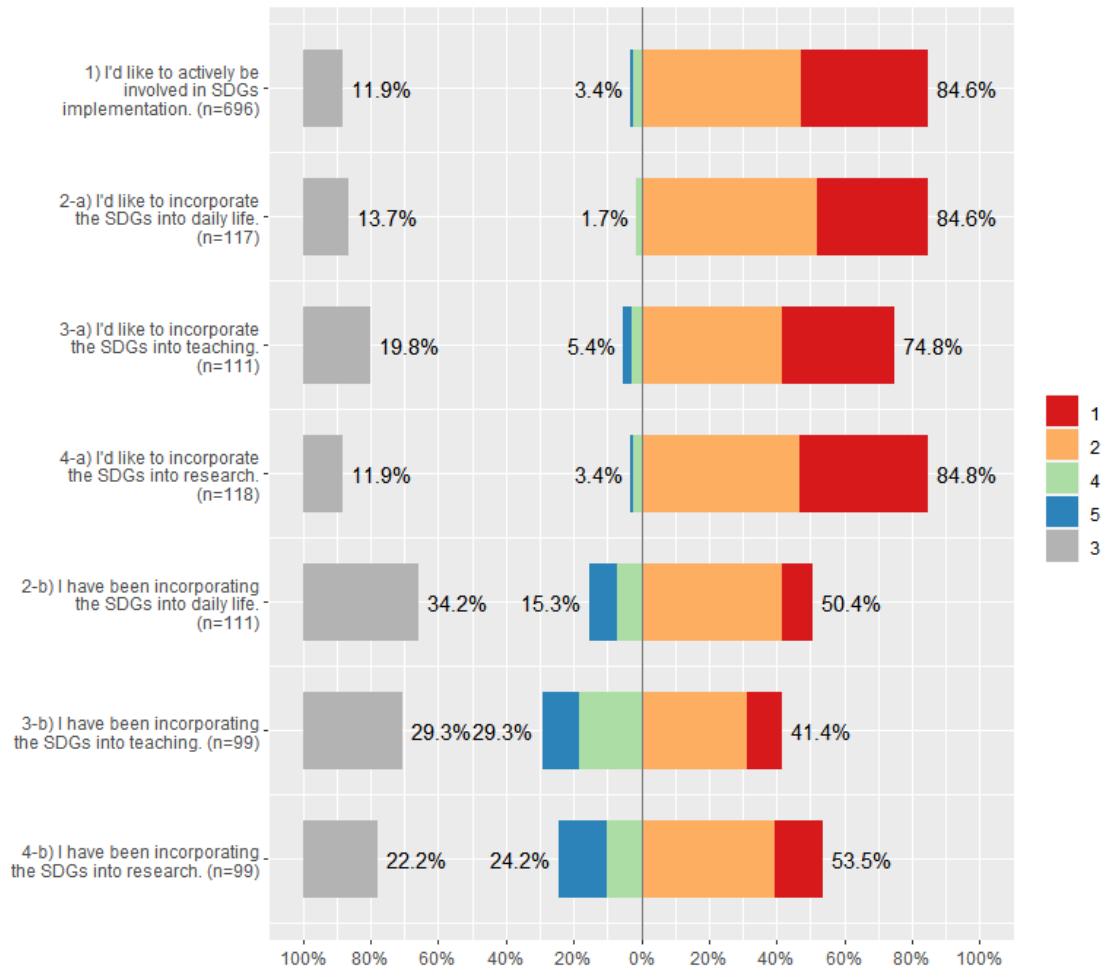
The scale indicates as follows:

- (1) Strongly agree
- (2) Somewhat agree
- (3) Neither agree nor disagree
- (4) Somewhat disagree
- (5) Strongly disagree
- (6) No basis of judgment (coded as missing)

Approximately 80 % of respondents answered positively to the statement, "I'd like to actively be involved in SDGs implementation. The results show that 84.6 % of students, 78.9 % of staff members, 81.9 % of faculty members want to actively be involved in SDGs implementation (see 1 in Figures 4.3.1, 4.3.2 & 4.3.3). Furthermore, the result shows that more respondents would like to incorporate the SDGs into teaching and education; however, approximately one-third of those respondents haven't been able to incorporate the SDGs into those practices. For example, 84.8 % of graduate students would like to incorporate the SDGs into research; however, only 53.5 % have done so (see 4-a & 4-b in Figure 4.3.1).

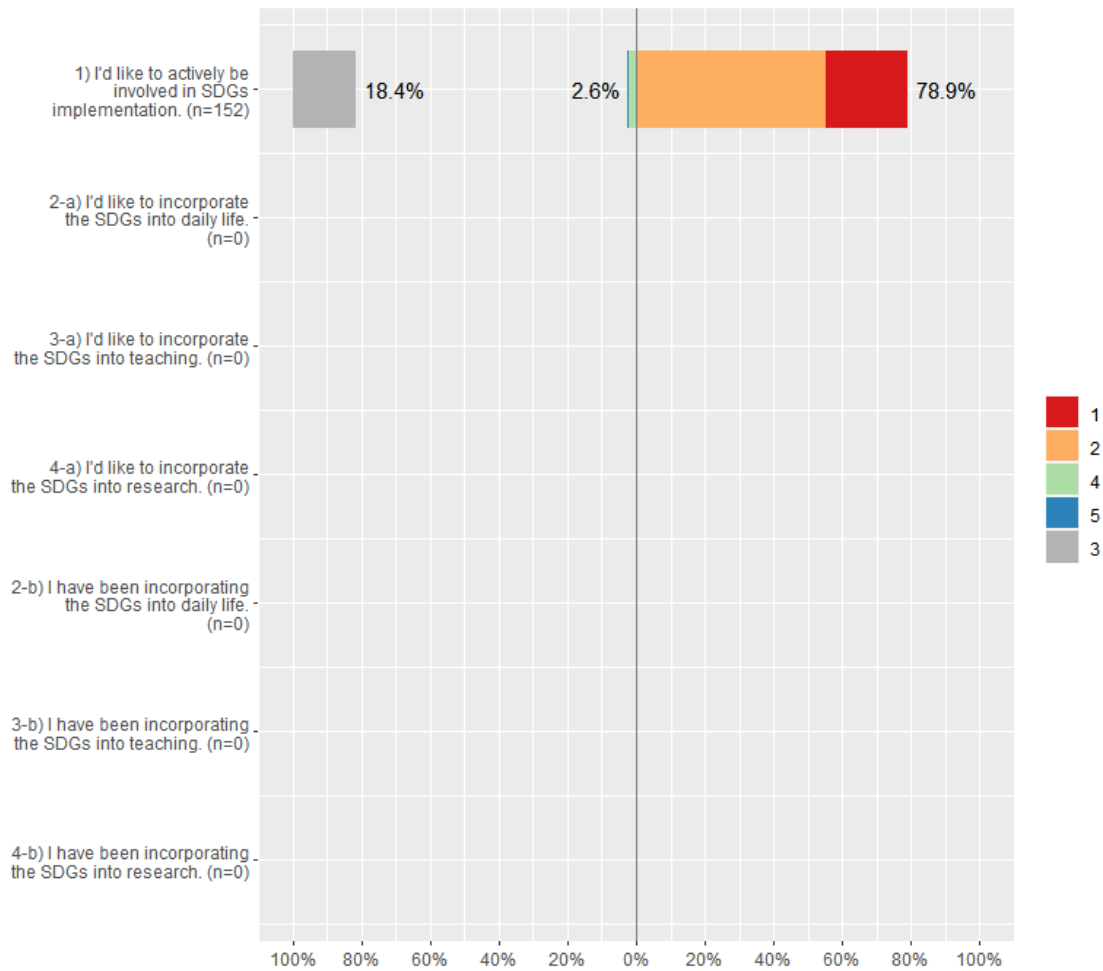
### 4.3.1 Student

Questions 2-a) to 4-d) aim at teaching and research; only graduate students were asked Questions 2-a)-4-b).



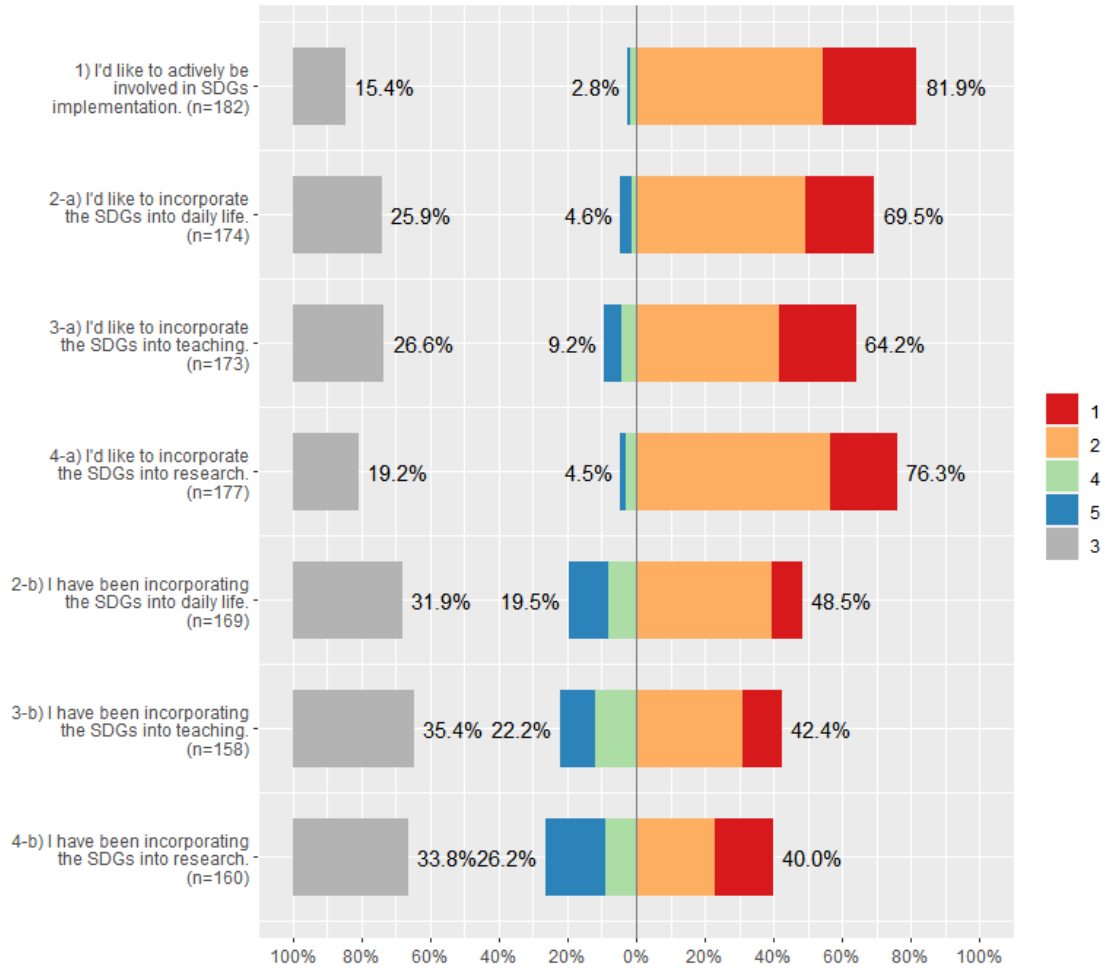
### 4.3.2 Staff

Questions 2-a) to 4-d) aim at teaching and research; staff was asked Question 1) only.





### 4.3.3 Faculty



## 4.4 Multidisciplinary Approaches to Achieving the SDGs

To measure perceptions of multidisciplinary approach to achieving the SDGs, graduate students and faculty members were asked to rate on a five-point scale if they strongly agree (1) or disagree (5) with the following statements:

1-a) To achieve the SDGs, it requires multidisciplinary approaches to university education.

2-a) To achieve the SDGs, it requires multidisciplinary approaches to research.

1-b) I have been incorporating multidisciplinary into teaching.

2-b) I have been incorporating multidisciplinary into research.

The scale indicates as follows:

(1) Strongly agree

(2) Somewhat agree

(3) Neither agree nor disagree

(4) Somewhat disagree

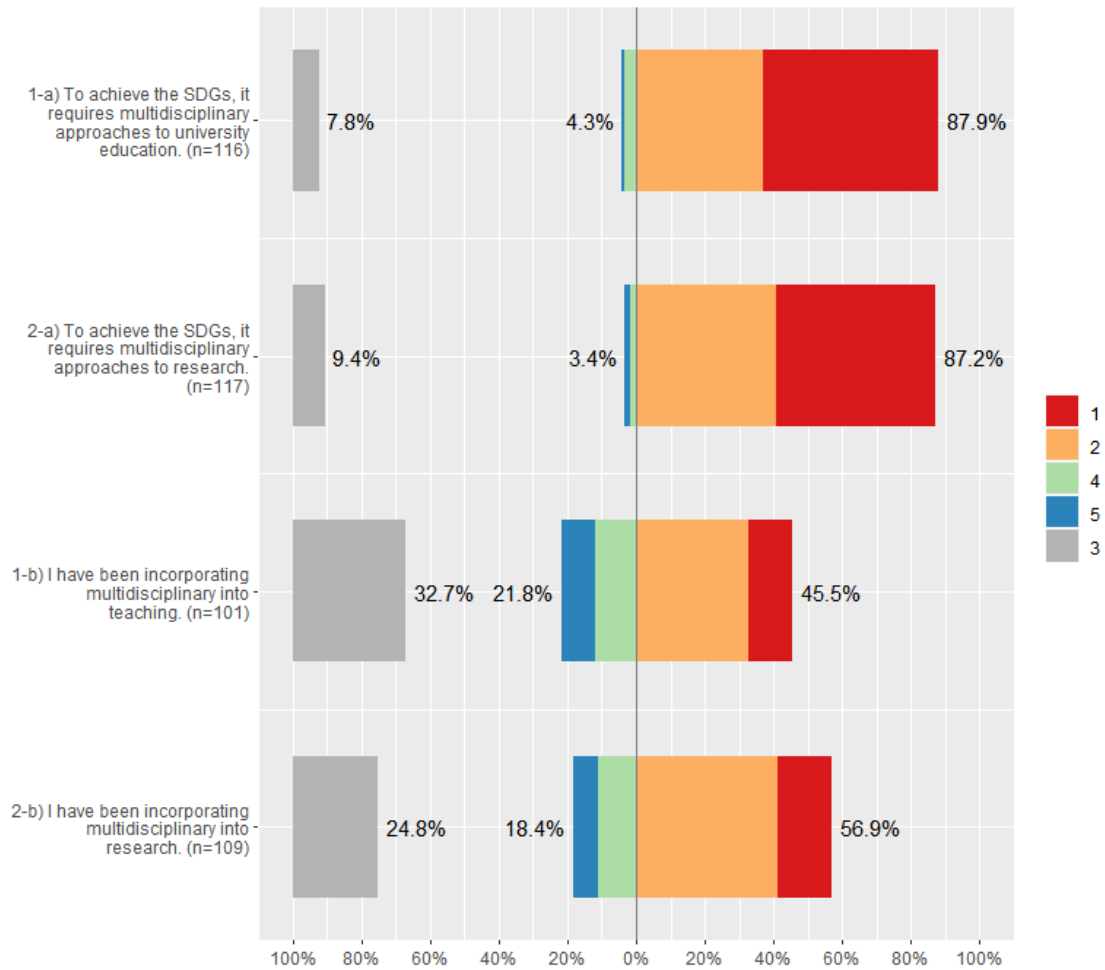
(5) Strongly disagree

(6) No basis of judgment (coded as missing)

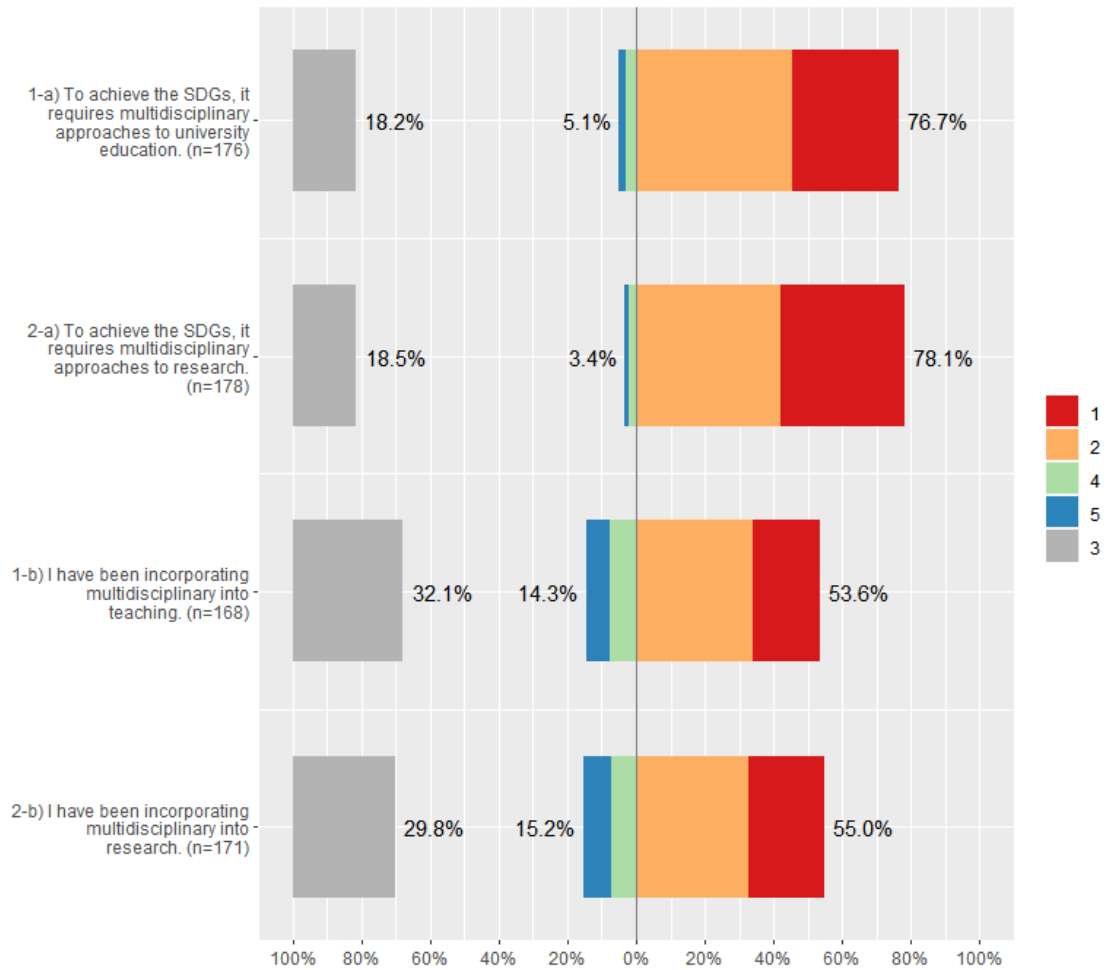
87 % of graduate students agree that multidisciplinary approaches are required to achieve the SDGs, but 45 % of them have been incorporated multidisciplinary into teaching, 56.9 % into research (see Figure 4.4.1).

### 4.4.1 Student

Only graduate students were asked questions.



## 4.4.2 Faculty



## 4.5 Perceptions on Individual Goals

We asked which of 17 SDGs respondents are interested in, in which they have already taken action as an individual, and in which they want to put efforts into achieving. All respondents were asked to select the maximum of five goals on the following:

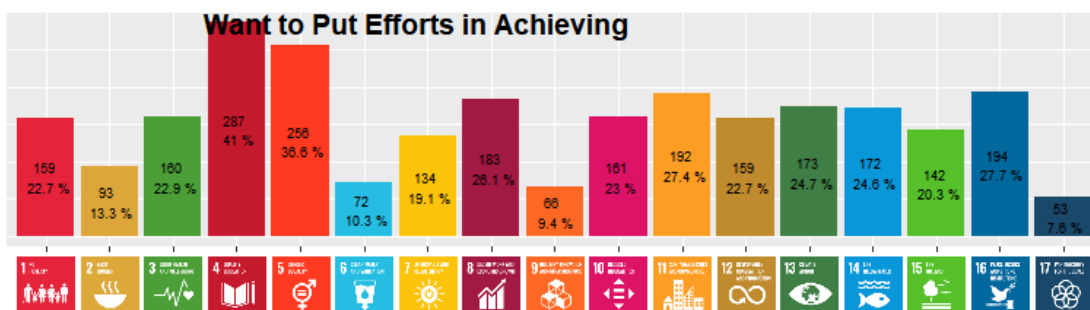
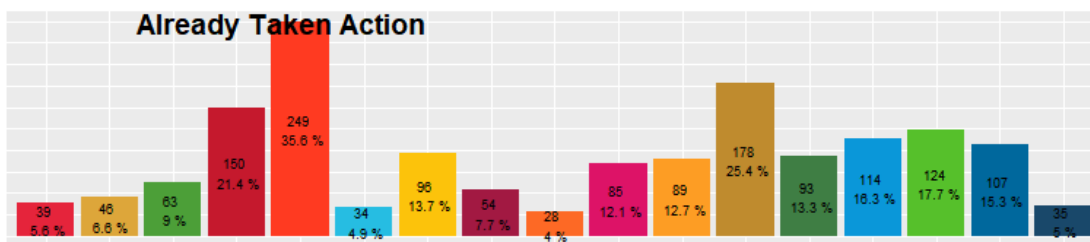
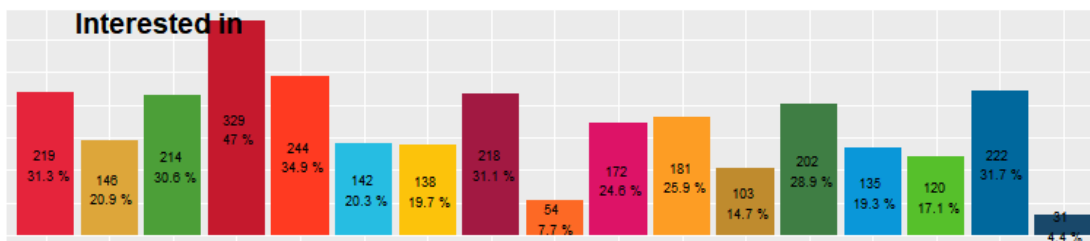
- SDGs which you are interested in
- SDGs which you have already taken action
- SDGs which you want to put efforts in achieving

Numbers in each bar indicated that

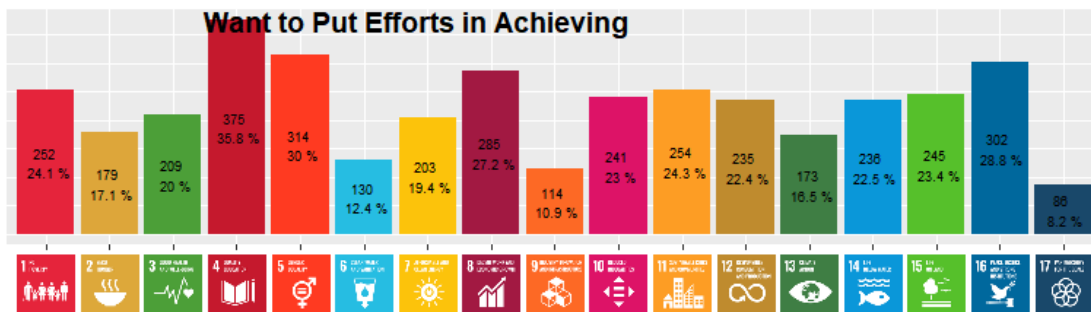
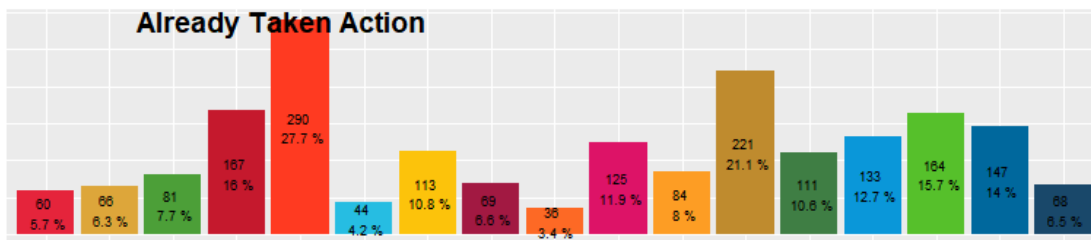
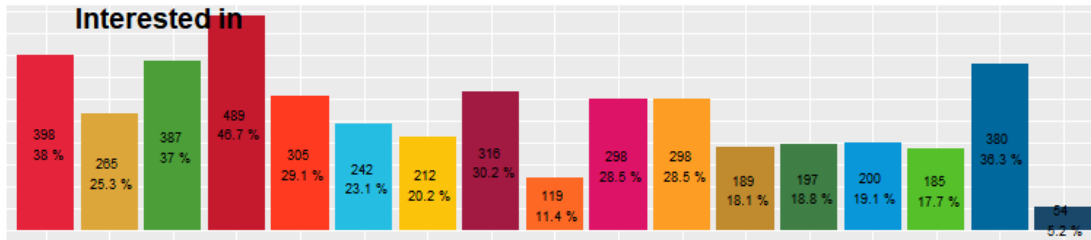
Top: Row number of responses

Bottom: Ratio of responses to total respondents (ratios don't add up to 100 % as respondents answered max of five goals.)

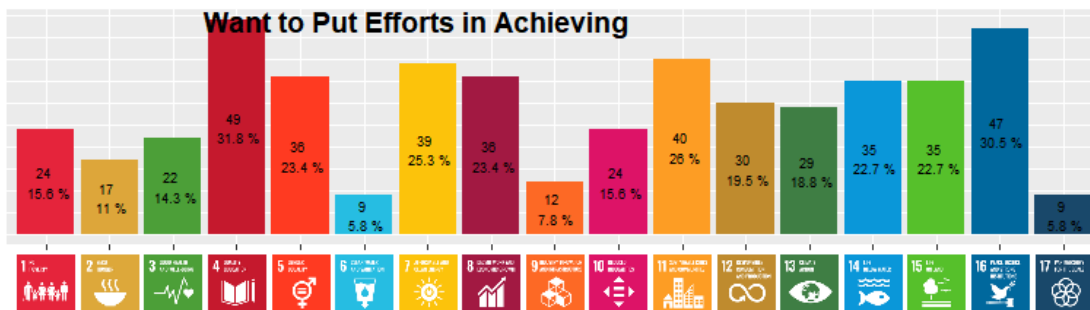
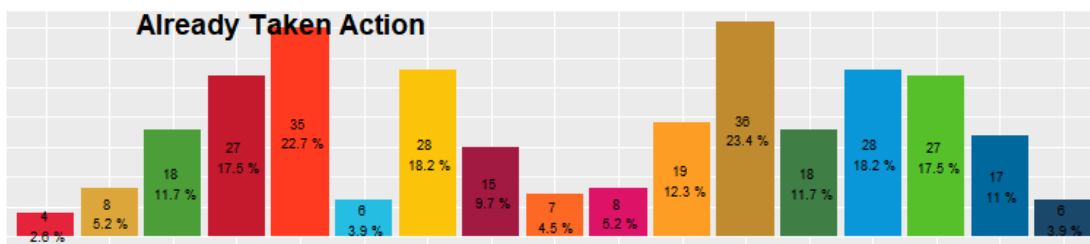
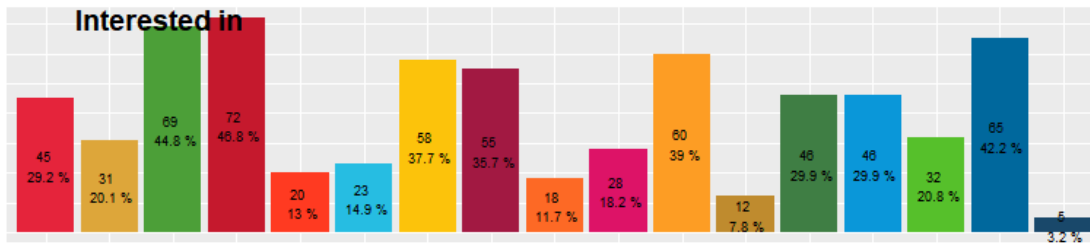
### 4.5.1 Student 2020



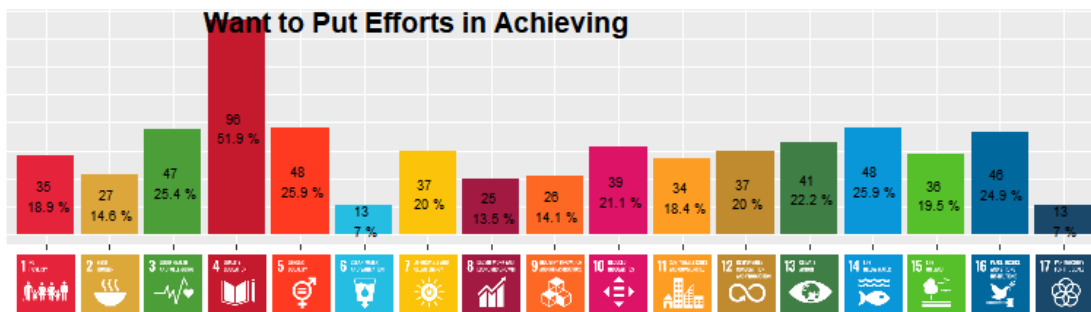
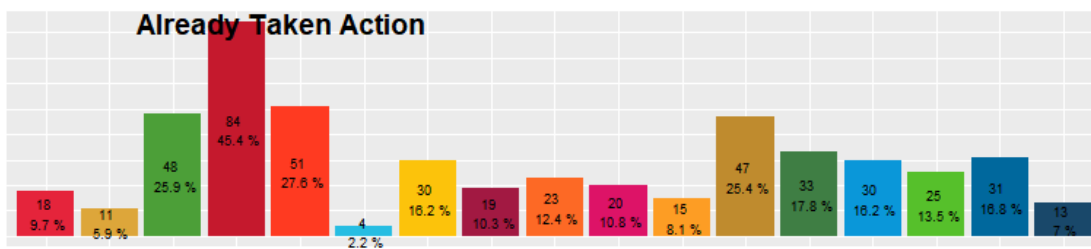
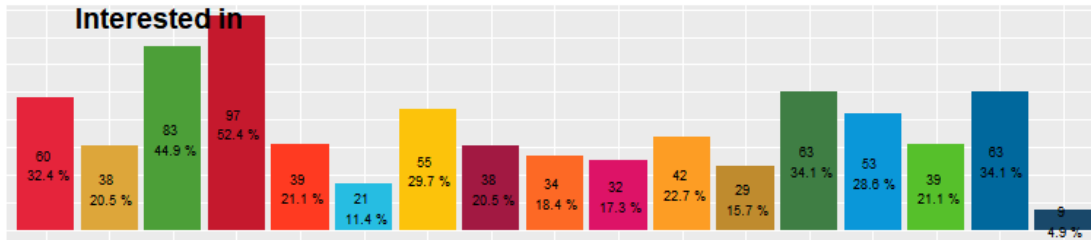
## 4.5.2 Student 2019



### 4.5.3 Staff



## 4.5.4 Faculty





## 4.6 Who should be responsible for each SDG in Japan?

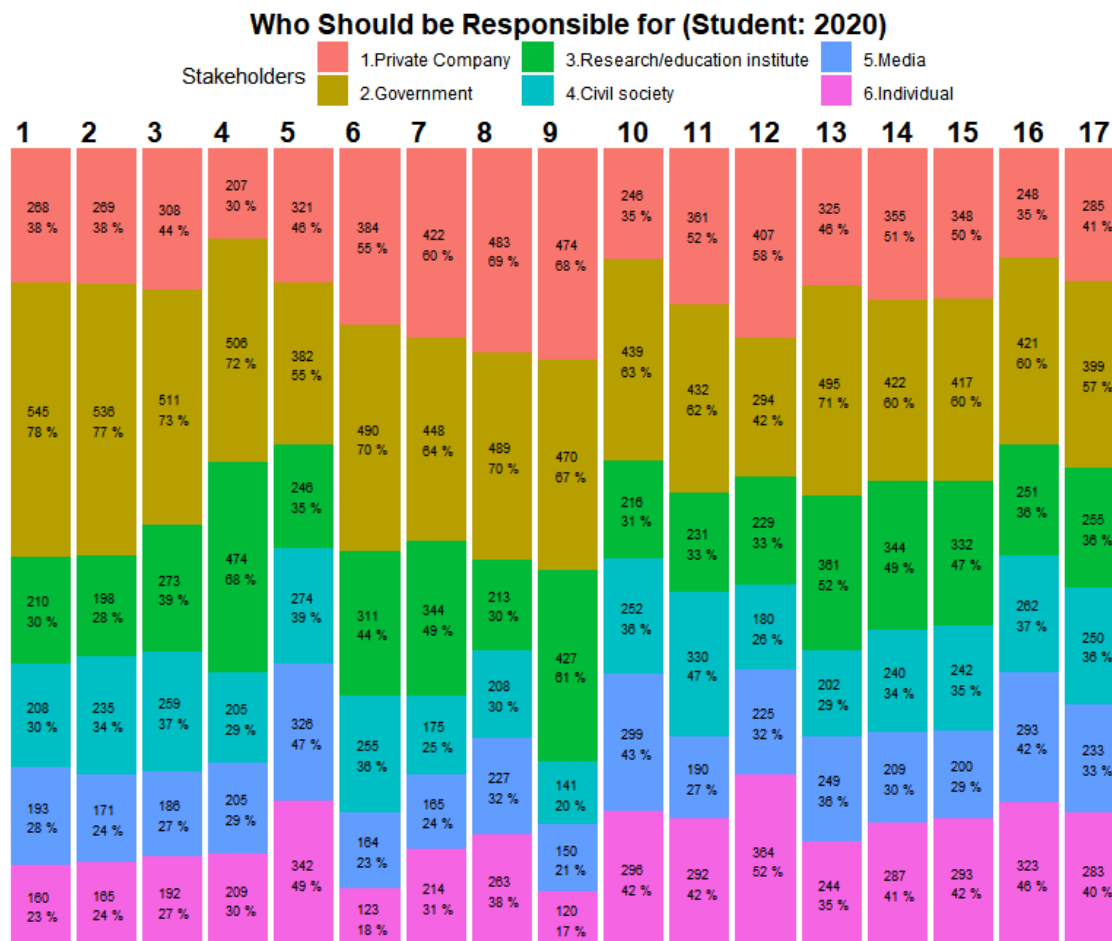
All respondents were asked to select all stakeholders that should be responsible for implementing the SDGs.

Numbers in each bar indicated that

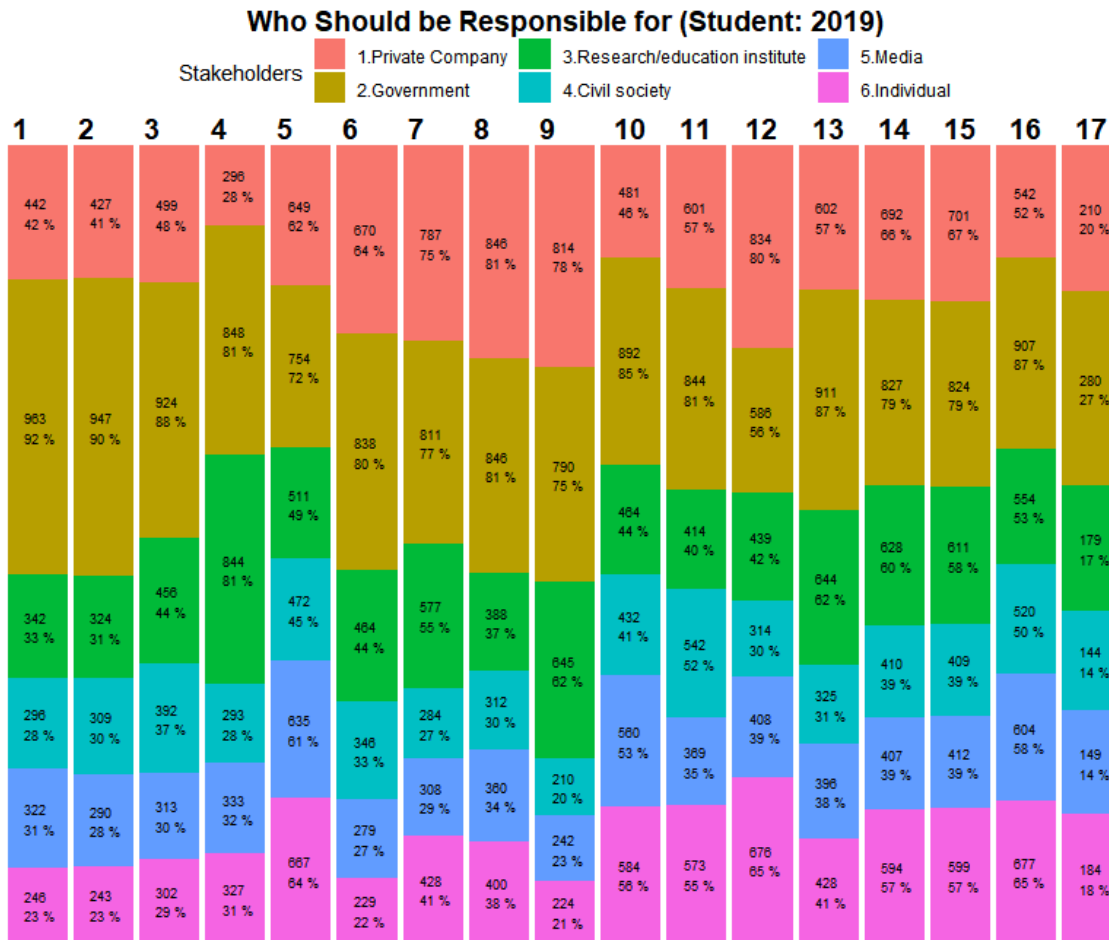
Top: Row number of responses

Bottom: Ratio of responses to total respondents (ratios don't add up to 100 % as respondents answered all stakeholders.)

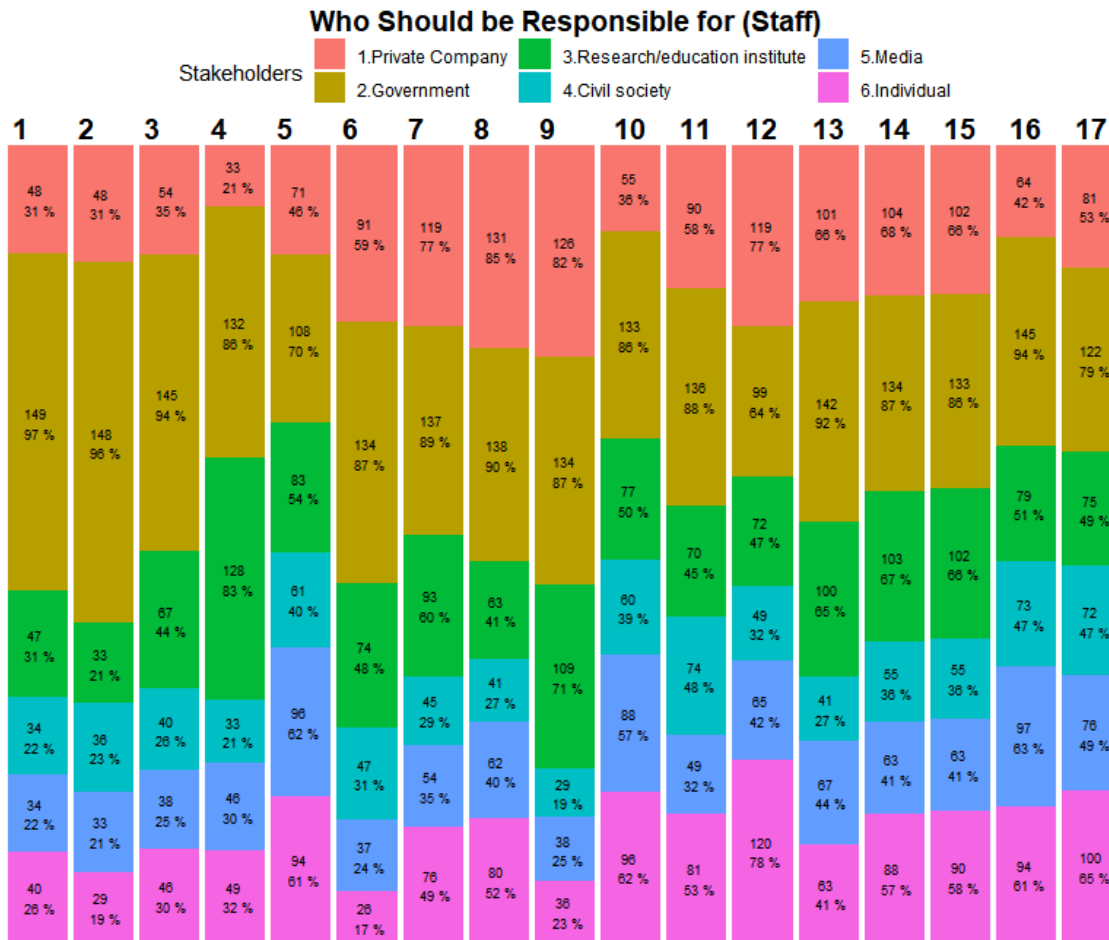
### 4.6.1 Student 2020



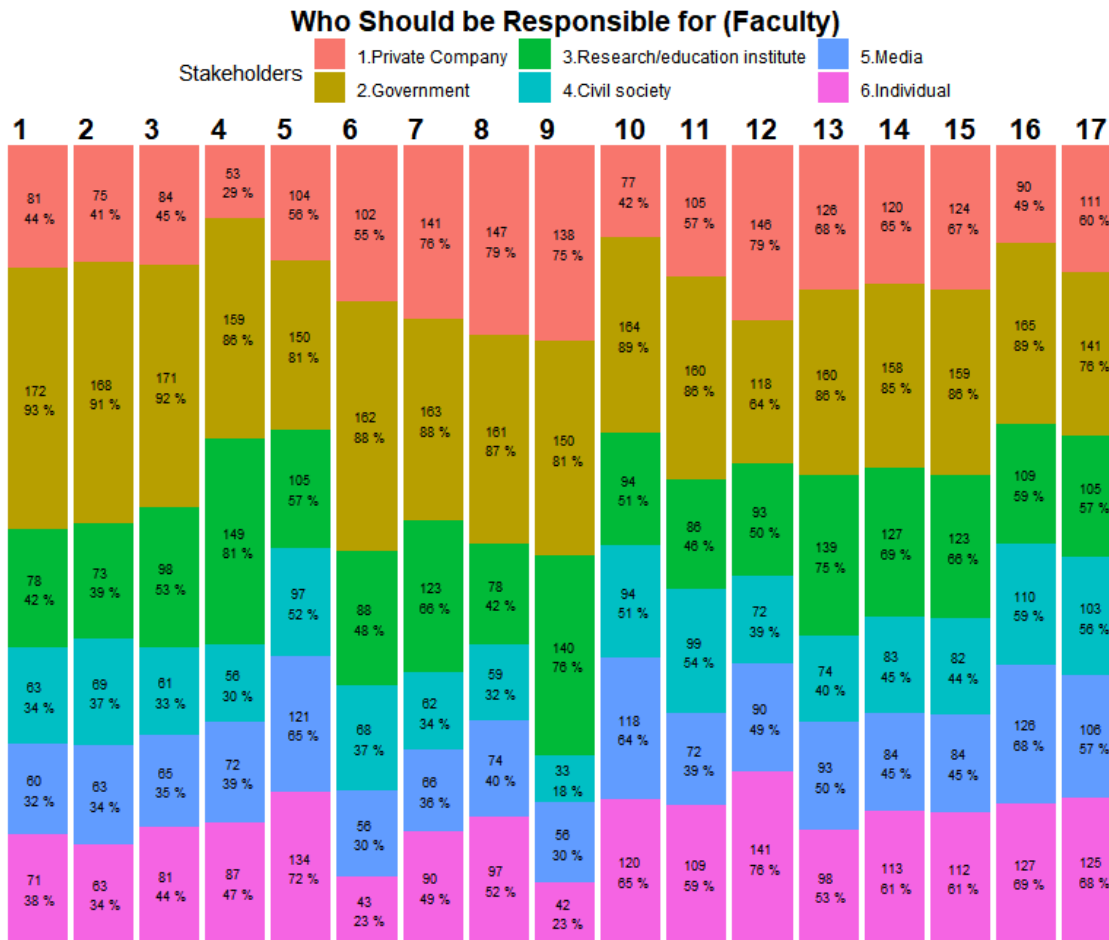
## 4.6.2 Student 2019



### 4.6.3 Staff



## 4.6.4 Faculty



## 4.7 Awareness about NERPS



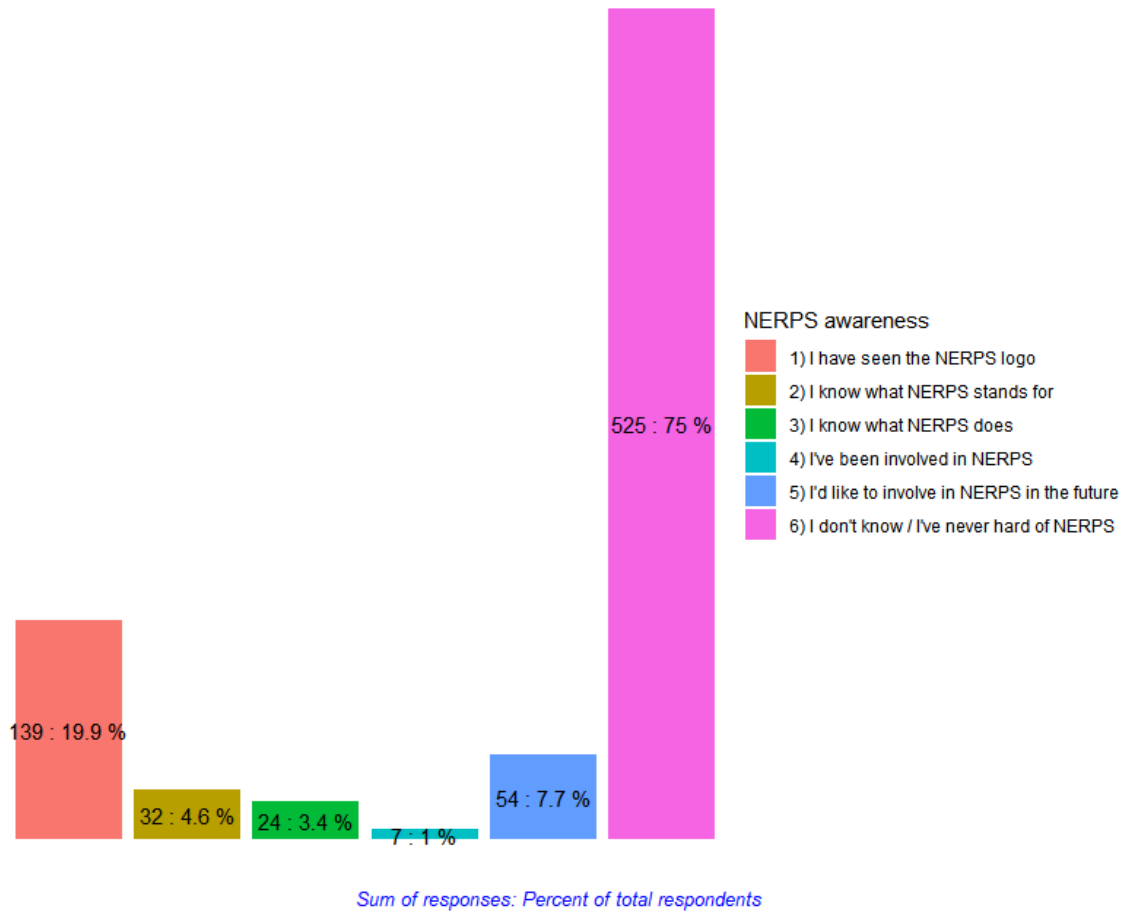
The Network for Education and Research on Peace and Sustainability (NERPS) was fund in 2018 to become an international network of educators, researchers, and practitioners collaborating towards the advancement of peaceful and sustainable societies amidst global challenges as well as to serve as a resource hub for SDG-related activities of Hiroshima University. To better understand the awareness level within the university to advance the NERPS activities, all respondents were asked to mark all that apply to the following statements.

- 1) I have seen the NERPS logo.
- 2) I know what NERPS stands for.
- 3) I know what NERPS does.
- 4) I've been involved in NERPS.
- 5) I'd like to involve in NERPS in the future.
- 6) I don't know / I've never heard of NERPS.

At the time of the survey, the awareness levels of NERPS, those who have seen the log were still low: 19.9 % for student, 33.8 % for staff, and 25.4 % for faculty. However, a certain number of respondents showed an interest in involving NERPS activities. For example, 54 students responded that they'd like to involve in NERPS in the future.

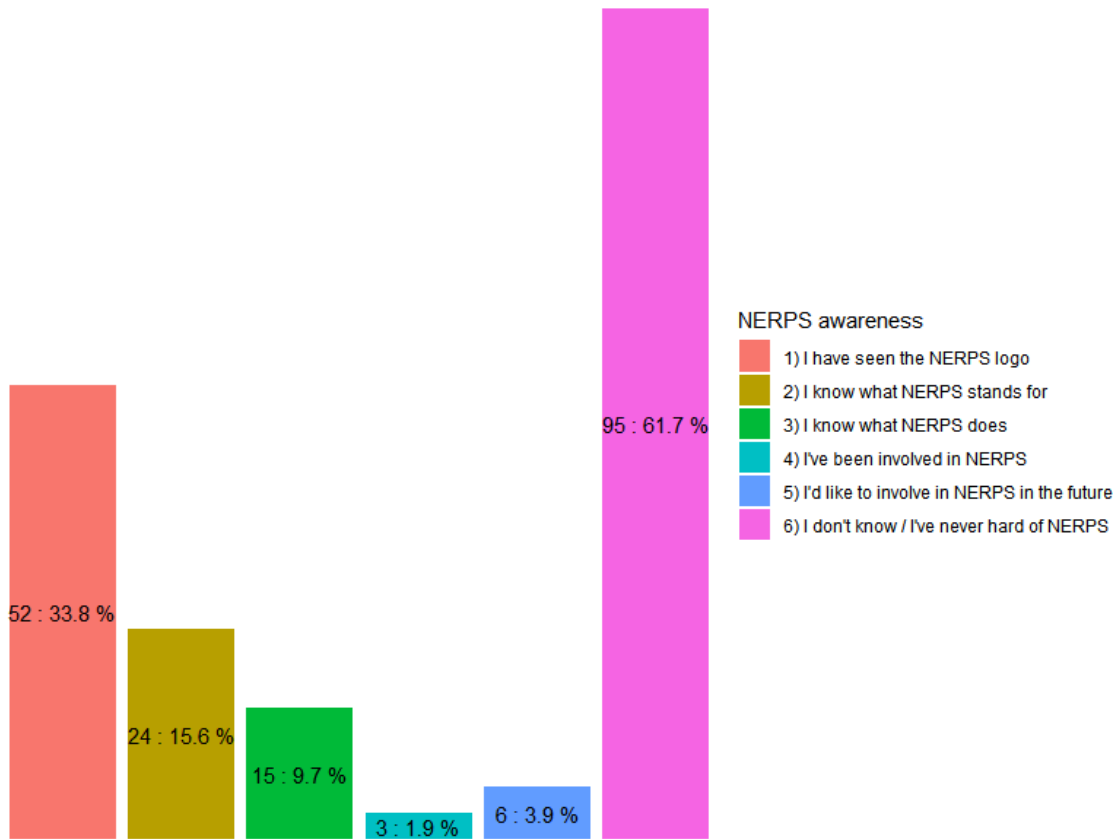
### 4.7.1 Student

**Awareness of NERPS (Student)**



## 4.7.2 Staff

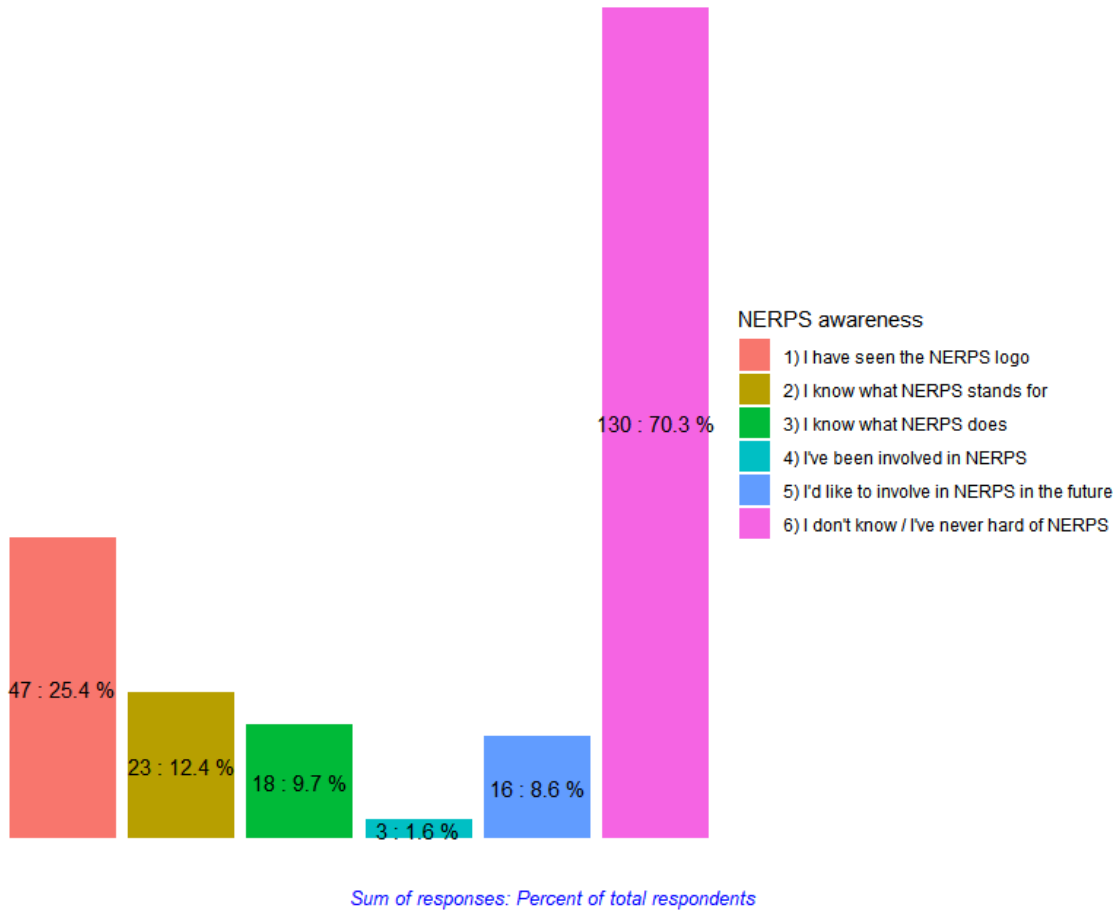
### Awareness of NERPS (staff)



Sum of responses: Percent of total respondents

### 4.7.3 Faculty

**Awareness of NERPS (faculty)**



---

In closing, we would like to thank all those who supported the project. We hope that this report serves as a useful reference to people who are planning actions towards achieving the SDGs.



